

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
基礎	スポーツ科学	2	30	選択	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科 作業療法学科 2年生	赤岩龍士	解剖学Ⅰ・解剖学実習・運動学・整形外科学・機能診断学・運動療法学・骨関節疾患理学療法学			
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	スポーツにおける動作の特徴、外傷障害について理解する。				
行動目標 (SBO)	1 スポーツ基本動作について知る。 2 スポーツ外傷障害の発生機序、特徴、応急処置について知る。 3 コンデショニングについて実践できるようにする。 4 実際にテーピング・バンデージの実習を行って必要な知識・技術を身につける。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>スポーツは、競技レベルから一般愛好家レベルまで幅広く行われている活動です。 どの競技レベルにおいても、スポーツにおける外傷・障害は、予防することが第一となります。 本講義では、スポーツに関連の深い障害外傷のメカニズムを理解し、トレーニング方法、テーピング、評価方法および応急処置を学びます。 スポーツとケガは関連が深く、一度生じた外傷や障害を完治せずに、もしくは適切な処置を行わずにプレーを継続することは、さらに状態を悪化させてしまうことを念頭においてください。 理学療法士、作業療法士とも病院で治療を行うことが主となる職種ですが、スポーツでケガをした方々の治療を行う場合は、スポーツ活動の特性を踏まえ、予防策、応急処置に至るまで指導できるよう心がけましょう。</p>					
教科書・参考書					
【教科書】 指定なし ※授業時適宜配布。 【参考図書】 基礎運動学第6版、整形外科に関する書籍、テーピングに関する書籍、スポーツ外傷障害に関する書籍					
受講時留意点、その他					
各講義において実習ができる服装で参加すること。 テーピングなど物品の取り扱いを丁寧にする。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	0	実施しない			
小テスト	0	実施しない			
レポート	0	実施しない			
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他	100	行動観察:第10回にテーピングもしくはバンデージの実施 ⇒評価:正確性・実施時間(1分間)・仕上がりの3項目で評価。第10回実施。 科目に対する興味、関心、学習に対する積極性が良好な場合、加点の対象とする場合がある。 授業に対する迷惑行為、清潔感にかける身だしなみなどは減点の対象とする場合がある。 正当でない理由での欠席は減点の対象とする場合がある。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月6日	コースオリエンテーション・スポーツ基本動作について この講義の目的、目標、スケジュールなどを確認、理解する。 6つスポーツの基本動作について理解する。 【キーワード】スポーツ基本動作・特徴	赤岩	配布資料	講堂
第2回 4月22日	スポーツ傷害外傷について スポーツ傷害・外傷および応急処置について理解する。 【キーワード】スポーツ傷害外傷・応急処置	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第3回 5月6日	足関節捻挫のメカニズム 足関節の構造と捻挫を生じるメカニズムについて理解する。 【キーワード】足関節・靭帯・検査方法	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第4回 5月13日	バンデージ実習① 足関節捻挫 足関節捻挫のバンデージを体験する。 【キーワード】足関節・捻挫・テーピング	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第5回 5月20日	バンデージ実習② 足関節捻挫 足関節捻挫のバンデージをできるようにする。 【キーワード】足関節・捻挫・テーピング	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第6回 5月27日	テーピング実習① 足関節捻挫に対して 足関節捻挫のテーピング固定をできるようにする。 【キーワード】足関節・捻挫・テーピング	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第7回 6月3日	テーピング実習② 足関節捻挫に対して 足関節捻挫のテーピング固定をできるようにする。 【キーワード】足関節・捻挫・テーピング	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第8回 6月10日	テーピング実習③ 足アーチサポート 足アーチサポートなどのテーピングを体験する。 【キーワード】足アーチ・外反拇趾・扁平足	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第9回 6月17日	テーピング実習④ 膝関節靭帯損傷 膝関節のテーピングを体験する。 【キーワード】膝関節・十字靭帯・側副靭帯	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第10回 6月24日	復習:実技確認 バンデージもしくはテーピングの実技習熟度を確認する。	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第11回 7月1日	スポーツ傷害の検査測定方法① 上肢のスポーツ外傷障害の検査測定方法について理解する。 【キーワード】整形外科検査・動作観察・HOPSS	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第12回 7月1日	スポーツ傷害の検査測定方法② 下肢体幹のスポーツ外傷障害の検査測定方法について理解する。 【キーワード】整形外科検査・動作観察・HOPSS	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第13回 7月8日	障害の応急処置 スポーツ傷害発生時の応急処置について理解する。 【キーワード】RICE処置・アイシング・処置手順	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第14回 7月15日	アスレチックリハビリテーション① 上肢体幹のスポーツ外傷障害のアスリハについて理解する。 【キーワード】コンディショニング・筋力トレーニング・動作練習	赤岩	配布資料	治療室・機能訓練室
第15回 7月22日	アスレチックリハビリテーション② 下肢体幹のスポーツ外傷障害のアスリハについて理解する。 【キーワード】コンディショニング・筋力トレーニング・動作練習	赤岩	配布資料	講堂
定期試験	実施しない。			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
基礎	福祉環境論	2	30	選択	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年 作業療法学科2年	中原 留美子	PT学科:日常生活活動学・地域リハ学 OT学科:日常生活技術学・リハ関連機器・義肢装具学・地域OT学			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	障害者の住環境を整え、その人らしい生活を送れるよう支援する知識や技術を身につける。				
行動目標 (SBO)	1. 住環境整備の意義や考え方を理解する。 2. 高齢者や障害者の特性に合った住環境整備について具体的な方法を理解する。 3. 福祉用具の種類や活用方法を具体的に理解する。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>理学療法士・作業療法士にとって、障害者の住環境をどのように整備するかを理解することはとても重要なことです。本講義では、福祉住環境コーディネーターの知識や技術を通して、福祉用具を含めた福祉住環境のあり方を学んでいきます。この分野は個別性を重視することも大切なことであり、正解は1つではありません。グループワークを通して、さまざまな考え方や価値観・人生観をお互いに理解することにより、これから出会う対象者の方々に向き合う時に役に立ちます。また、疾患の理解を必要としますので、関連の深い科目以外の科目についても知識を確認しておいてください。特に、ICFを用いて、健康、心身機能・身体構造、活動・参加、個人因子、環境因子との関連性から、住環境を考えるトレーニングをします。積極的に理解を深める努力をしましょう。</p>					
教科書・参考書					
東京商工会議所発行 福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト(改訂4版)					
受講時留意点、その他					
<p>健康管理に留意し、欠席しないようにしましょう。疾患ごとの住宅環境を考えることとなりますので、関連する科目の教科書および資料を準備しましょう。グループワークでは、積極性と協調性が求められます。自分の考えを人に伝える、相手の思いを理解するなど、建設的な意見交換ができるようになります。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験					
小テスト	100	小テストを4回実施します。前回までの間の知識を確認します。小テスト実施日に体調不良等で欠席をした場合、後日実施をするため、中原まで申し出てください。ただし、結果の80%を加算することとなりますので、ご了承ください。			
レポート					
実技試験					
プレゼンテーション					
その他		授業内での積極的な発言(質問や意見・発表)などをおこなった場合、1コマ毎に自己申告してもらいます。発言内容によっては加点します。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月8日	<u>コースオリエンテーション</u> この講義の目的、目標、スケジュールなどを確認、理解する。 「住まい」とはどのようなものかを話し合い、発表する。 【キーワード】住まいとは・KJ法	中原		
第2回 4月22日	<u>福祉住環境とPT・OTとの関連性</u> 福祉住環境の考え方・必要性について理解する。 【キーワード】住まいとは・福祉住環境とは・環境整備の必要性	中原		
第3回 5月6日	<u>住宅環境を考えるために必要な知識 ①</u> ICFからどのような知識が必要となるかを理解する。 【キーワード】ICF	中原		
第4回 5月13日	<u>第5章 福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識</u> 建築基準法等の制度と構造上の基本的知識を理解する。 【キーワード】建築基準法・段差・手すり・建具・モジュール	中原	222-294	
第5回 5月20日	<u>第6章 在宅生活における福祉用具の活用 ②</u> 福祉用具の選択と効果判定、各福祉用具の特徴を理解する。 【キーワード】福祉用具・ベッド・移動・段差解消・排泄・入浴	中原	328-380	
第6回 5月27日	<u>ADLと住宅改修</u> 排泄行動の動線から、必要な心身機能・身体構造を捉え、住宅改修の必要性を理解する。 【キーワード】ADL・動線・改修時の留意点	中原		
第7回 6月3日	<u>第2章 障害の捉え方と自立支援のあり方</u> ICFを通して、どのように障害を捉え自立支援をしていくかを理解する。 【キーワード】ICF・大腿骨頸部骨折・独居	中原	70-102	
第8回 6月10日	<u>第2章 障害の捉え方と自立支援のあり方</u> ICFを通して、どのように障害を捉え自立支援をしていくかを理解する。 【キーワード】ICF・大腿骨頸部骨折・独居	中原		
第9回 6月17日	<u>RAと福祉住環境(事例:歩行レベル)③</u> 関節リウマチの事例について、ICFを通して、住宅改修を理解する。 【キーワード】関節リウマチ・ICF・住宅改修・グループワーク	中原		
第10回 6月24日	<u>CVAと福祉住環境(事例:軽度片麻痺)</u> 軽度片麻痺の事例について、ICFを通して、住宅改修を理解する。 【キーワード】重度片麻痺・車いす・ICF・住宅改修・グループワーク	中原		
第11回 7月1日	<u>CVAと福祉住環境(事例:重度片麻痺)</u> 重度片麻痺の事例について、ICFを通して、住宅改修を理解する。 【キーワード】重度片麻痺・車いす・ICF・住宅改修・グループワーク	中原		
第12回 7月1日	<u>CVAと福祉住環境(事例:重度片麻痺)</u> 重度片麻痺の事例について、ICFを通して、住宅改修を理解する。 【キーワード】重度片麻痺・ICF・住宅改修・グループワーク	中原		
第13回 7月8日	<u>脊髄損傷と福祉住環境(事例:C6BⅡレベル)</u> 脊髄損傷の事例について、ICFを通して、住宅改修を理解する。 【キーワード】脊髄損傷・ICF・住宅改修・グループワーク	中原		
第14回 7月15日	<u>脊髄損傷と福祉住環境(事例:C6BⅡレベル)</u> 脊髄損傷の事例について、ICFを通して、住宅改修を理解する。 【キーワード】脊髄損傷・ICF・住宅改修・グループワーク	中原		
第15回 7月22日	<u>第4章 相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方 ④</u> 対象者や家族の思いを考えつつ、住環境整備の相談援助の進め方を理解する。 【キーワード】相談援助技術・対象者と家族の思い	中原	182-220	
定期試験	①～④の小テストの範囲は、テスト間の知識の確認とします。			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	内科学Ⅱ	1	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年 作業療法学科2年	鈴木 淳 (非常勤)	解剖学Ⅱ、生理学、病理学			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	内科学における症候学、診断、治療を理解する				
行動目標 (SBO)	血液・造血器疾患、代謝性疾患、内分泌系疾患、腎・泌尿器系疾患 等				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
医学の中心的学問である。内科学における症候学、診断、治療を理解するとともに、リハビリテーション専門職として理学・作業療法の実践やリスク管理に必要な知識を習得する。内科学の思考過程を理解するとともにリハビリテーション学との関連性について理解する。					
教科書・参考書					
前田 眞治／著:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版. 医学書院.					
受講時留意点、その他					
前期、毎週金曜日の3時限目に開講します。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	前期末試験を行う。			
小テスト					
レポート					
実技試験					
プレゼンテーション					
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月8日	血液・造血器疾患	鈴木		107・8
第2回 4月22日	血液・造血器疾患	鈴木		107・8
第3回 5月6日	代謝性疾患	鈴木		107・8
第4回 5月13日	代謝性疾患	鈴木		107・8
第5回 5月20日	内分泌系疾患	鈴木		107・8
第6回 5月27日	内分泌系疾患	鈴木		107・8
第7回 6月3日	腎・泌尿器疾患	鈴木		107・8
第8回 6月10日	腎・泌尿器疾患	鈴木		107・8
第9回 6月17日	RA	鈴木		107・8
第10回 6月24日	RA以外の膠原病・アレルギー疾患・免疫不全	鈴木		107・8
第11回 6月30日	RA以外の膠原病・アレルギー疾患・免疫不全	鈴木		107・8
第12回 7月8日	感染症疾患	鈴木		107・8
第13回 7月15日	感染症疾患	鈴木		107・8
第14回 7月22日	中毒および環境要因による疾患・皮膚疾患	鈴木		107・8
第15回 7月22日	内科疾患とリハビリテーション、第1回～第14回の復習 等	*専任教員		107・8
定期試験	前期末試験			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
基礎専門	神経内科学	1	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科 2年 作業療法学科 2年	井上 聖啓 (内田 成男)	基礎医学科目、臨床心理学、精神医学、小児科学、神経機能評価学、神経系を中核とした理学・作業療法学等			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	神経症候および主な神経疾患の病態と診断、治療について理解を深め、対象疾患に対する評価法と基本的なリハビリテーション治療への理解を深めることを目標としている。				
行動目標 (SBO)	以下の事項を行動目標とする。 1) 神経系の機能解剖について説明できる。 2) 主な神経学的検査法を理解し、実践できる。 3) 主要な神経症候を理解し説明できる。 4) 主要な神経・筋疾患について理解する。 5) 主要な神経・筋疾患のリハについて考えることができる。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>理学療法(士)・作業療法(士)の対象疾患として、神経・筋疾患は重要な疾患群であり、適切な理学療法、作業療法を実践するためには、これらの疾患群に対する十分な知識が求められる。</p> <p>理解を深めるためには、神経系、特に中枢神経系の機能解剖と主な疾患の関係性を踏まえて学習を進めると良いでしょう。また、実際の症候がどのような意味を持つのかを考えながら、主要な神経疾患の特徴を把握できるようにしましょう。分からないことは積極的に質問できるようにしましょう。</p>					
教科書・参考書					
<p>【教科書】川平 和美(編):標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第4版, 医学書院, 2013</p> <p>【参考図書】医療情報科学研究所:病気がみえるvol7.脳・神経, メディックメディア, 2011</p>					
受講時留意点、その他					
積極的な受講態度で授業に臨んでください。教科書を中心にしっかりと予習・復習をしてください。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	重要な事項を中心に記述式の試験を予定しています。			
小テスト	0	授業の復習を中心に2~3回程度の予定しています。理解が不十分な事項をしっかりと確認できるようにしましょう。			
レポート	0	小テストで理解が不十分な場合に、課題レポートの提出を考慮します。			
実技試験	0	なし			
プレゼンテーション	0	なし			
その他		授業に対する迷惑行為、正当でない理由での遅刻・欠席、無礼な受講態度 などは減点の対象とする場合があります。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回	コースオリエンテーションと中枢神経系の機能解剖 授業の目標と進め方について解説する。中枢神経系の機能解剖および可塑性について理解する。【キーワード】中枢神経系、伝導路、脳血管系、情報処理、可塑性	内田	p5-31	107・8
第2回 4月28日	神経学的診断法: 神経学的診察と障害、画像診断、神経生理学的検査法などの要点を理解する。【キーワード】髄膜刺激症状、反射、協調運動、CTとMRIの特徴、神経伝導検査、筋電図、血液生化学検査など	井上 1時限目	p35-66	107・8
第3回 4月28日	神経症候学①: 意識障害・脳死、頭痛・めまい・失神、運動麻痺、筋萎縮、錐体外路症候、不随意運動の概要を学ぶ。【キーワード】傾眠～昏睡、JCS・GCS、運動ニューロン障害、筋緊張(痙縮と固縮)・他	井上 2時限目	p69-90	107・8
第4回 5月2日	神経症候学②: 運動失調、感覚障害および高次脳機能障害(失語症)の概要を学ぶ。【キーワード】運動失調(脊髄性、小脳性など)、特殊感覚、体性感覚(表在・深部)、失語症、他	井上 1時限目	p91-113	107・8
第5回 5月2日	神経症候学③: 高次脳機能障害(失認、失行、記憶)の概要を学ぶ。【キーワード】半側空間無視、身体失認、観念運動失行、観念失行など、運動維持困難、短期記憶、長期記憶、健忘など	井上 2時限目	p114-137	107・8
第6回 5月6日	神経症候学④: 高次脳機能障害(注意、遂行機能)、構音障害、嚥下障害の概要を学ぶ。【キーワード】注意、遂行機能、構音障害、嚥下の相、球麻痺、仮性球麻痺など	井上 1時限目	p138-158	107・8
第7回 5月6日	各論①: 脳血管障害の病態、分類、診断、医学的治療について学ぶ。【キーワード】NINDSⅢ分類、脳梗塞・脳出血、画像診断、急性期治療、rt-PA療法、外科的・保存的治療、合併症など	井上 2時限目	p167-196	107・8
第8回	確認と復習Ⅰ: 第1～7回目までの授業の復習を実施し、後半の授業に向けて重要事項を確認・整理する。(確認小テスト)	内田		107・8
第9回 5月10日	各論②: 認知症、脳腫瘍の概要について学ぶ。【キーワード】認知症鑑別診断、周辺症状、Alzheimer病、脳腫瘍の分類、主な脳腫瘍、	井上 3時限目	p197-219	107・8
第10回 5月10日	各論③ 外傷性脳損傷、変性疾患、脱髄疾患について学ぶ。【キーワード】急性と慢性硬膜下血腫、脳挫傷、びまん性軸索損傷、SCD、OPCA、MSA、多発性硬化症、ALS、多発性硬化症、他	井上 4時限目	p220～225 p241～248	107・8
第11回 6月1日	各論④ 錐体外路の変性疾患(パーキンソン病)について学ぶ。【キーワード】4大徴候、自律神経障害、Hoehn and Yahr重症度分類、薬物療法、症候性パーキンソニズム、他	井上 2時限目	p249～261	107・8
第12回 6月1日	各論⑤ 主要な筋疾患について学ぶ。【キーワード】筋ジストロフィー(特にDuchenn型)、重症筋無力症、多発性筋炎、他	井上 3時限目	p274～286	107・8
第13回 6月2日	各論⑥ 感染性疾患、中毒・栄養欠乏による神経疾患について学ぶ。【キーワード】髄膜炎、脳炎、クロイツフェルト-ヤコブ病、HAM、HIV、ポリオ、中毒性疾患、ウェルニッケ脳症、他	井上 3時限目	p287～300	107・8
第14回 6月2日	各論⑦ 小児神経疾患:脳性麻痺、二分脊椎、排尿障害等について学ぶ。【キーワード】脳性麻痺の原因、診断、分類、二分脊椎の主要症状、Down症、排尿のメカニズム、神経因性膀胱、他	井上 4時限目	p301～320	107・8
第15回	確認と復習Ⅱ: 第9回～14回までの講義のまとめ・重要事項の確認、質疑応答を含めた総合討論。(確認小テスト)	内田		107・8
定期試験				

授業科目区分	授業科目名		単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	整形外科学Ⅱ		1	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目				
理学療法学科2年 作業療法学科2年	福塚 邦太郎(非常勤)	解剖学Ⅰ、整形外科学Ⅰ ほか				
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示						
一般目標 (GIO)	整形外科の概論、検査、治療法を学習する。					
行動目標 (SBO)	検査法、治療法、炎症性疾患、代謝・内分泌疾患 等					
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など						
整形外科の概論を理解するとともに、検査(画像含む)、治療法(保存的、手術、薬物)等の概略を学習する。 また、疾患ごとの各論を学び、臨床に即した知識の整理をする。						
教科書・参考書						
立野勝彦／著:標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学. 医学書院.						
受講時留意点、その他						
前期、毎週水曜日4時限目に開講します。						
成績評価方法						
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など				
定期試験	100	前期末試験を行う。				
小テスト						
レポート						
実技試験						
プレゼンテーション						
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。				
(合計)	100					

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月6日	整形外科基礎知識	福塚		107・8
第2回 4月13日	運動器の評価および検査法	福塚		107・8
第3回 4月20日	整形外科的治療法	福塚		107・8
第4回 4月27日	炎症性疾患	福塚		107・8
第5回 5月11日	代謝・内分泌性疾患、退行性疾患	福塚		107・8
第6回 5月18日	先天性骨・関節疾患	福塚		107・8
第7回 5月25日	循環障害と壊死性疾患	福塚		107・8
第8回 6月1日	循環障害と壊死性疾患 ※5時限目	福塚		107・8
第9回 6月8日	骨・軟部腫瘍	福塚		107・8
第10回 6月15日	神経・筋疾患	福塚		107・8
第11回 6月22日	神経・筋疾患	福塚		107・8
第12回 6月29日	脊椎の疾患	福塚		107・8
第13回 7月6日	脊髄損傷	福塚		107・8
第14回 7月13日	脊髄損傷	福塚		107・8
第15回 7月20日	切断および離断	福塚		107・8
定期試験 未定				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門基礎	小児科学	1	15	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年 作業療法学科2年	佐藤 博美(非常勤) 佐藤 倫子(非常勤)	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学、病理学			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	理学療法および作業療法の臨床に必要な小児疾患の基礎知識を習得する。				
行動目標 (SBO)	新生児・未熟児疾患、先天異常、神経疾患 ほか				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
理学および作業療法の臨床に必要な、小児の成長と発達、小児保健、新生児・未熟児・小児期の疾患に対する基礎知識を習得する。 授業方法は、教科書、配布資料を基にした講義をワークを予定。					
教科書・参考書					
富田豊／編：標準理学療法学・作業療法学 小児科学 第4版. 医学書院.					
受講時留意点、その他					
前期、火曜日1限に開講します。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	前期末試験を行う。			
小テスト					
レポート					
実技試験					
プレゼンテーション					
その他	*	正当でない理由での欠席、不真面目な受講態度などは減点とする場合がある。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月19日	小児科学概要・診断と治療の概要	佐藤		107・8
第2回 4月26日	新生児・未熟児疾患	佐藤		107・8
第3回 5月10日	先天異常と遺伝病	佐藤		107・8
第4回 5月17日	神経疾患(1)	佐藤		107・8
第5回 5月24日	神経疾患(2)	佐藤		107・8
第6回 5月31日	神経疾患(3)、筋・骨疾患	佐藤		107・8
第7回 6月7日	心身症・神経症・発達障害・重症心身障害児	佐藤		107・8
第8回 6月14日	呼吸器疾患・循環器疾患	佐藤		107・8
第9回 6月21日	感染症	佐藤		107・8
第10回 6月28日	消化器疾患、内分泌・代謝疾患	佐藤		107・8
第11回 7月5日	免疫・アレルギー疾患、膠原病、血液疾患	佐藤		107・8
第12回 7月12日	腎泌尿器生殖器疾患、腫瘍性疾患、眼科・耳鼻科的疾患	佐藤		107・8
定期試験 未定				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	運動機能評価学	2	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年生	赤岩龍士 大沼賢洋 佐藤 梢	解剖学・運動学・機能診断学・運動機能評価学実習			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	四肢体幹における運動機能の基本的な検査・測定方法を理解する。				
行動目標 (SBO)	①形態測定(肢長周径)の方法がわかる。 ②参考可動域を言える。関節可動域測定の方法がわかる。 ③教科書に準じた、徒手筋力検査法がわかる。 ④整形外科テストの目的と方法がわかる。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<ul style="list-style-type: none"> ・本講義では、形態測定、関節可動域測定、筋力測定について原則や方法について学びます。 ・運動機能評価学は、解剖学や運動学を基礎とし、対象者の身体状況を把握することが目標となりますが、治療計画立案や治療プログラムの見直し、予後予測に至るまで関連しています。 ・1年生の「機能診断学」とも関連が深いので、しっかり復習することを推奨します。 ・運動機能評価学実習と併行して行うので、実技を行いながら授業を行う場合もありますが、知識と技術を結びつけるように心がけましょう。 					
教科書・参考書					
教科書:理学療法評価学第4版(金原出版) ・ 新・徒手筋力検査法原著第9版(協同医書出版) 参考図書:基礎運動学第6版(医歯薬出版) ・ 図解四肢と脊椎の診かた(医歯薬出版) 1年生機能診断学で使用した配布資料					
受講時留意点、その他					
実技を行う場合があるので、動きやすい服装で参加する。 メジャー、ゴニオメーターは常に持参すること。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100%	筆記試験。100点満点。60点を合格基準とする。 出題範囲 第1回～第15回の範囲			
小テスト	0%	単元のまとめとして4回実施する。 ①第3回(下肢ROMt)②第6回(下肢MMT)③第9回(上肢ROMt)④第13回(上肢体幹MMT)			
レポート		なし			
実技試験		なし			
プレゼンテーション		なし			
その他		※ 欠席が多い場合、受講態度が不良の場合などは、減点となります。			
(合計)	100%				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月4日	<u>ガイダンス</u> 理学療法における「評価」の位置づけを理解する。	大沼	理学療法評価学第4版 p2～25	103・4
第2回 4月11日	<u>関節可動域測定下肢①</u> 股関節、膝関節の測定方法を理解する。	大沼	理学療法評価学第4版 p51,52	103・4
第3回 4月18日	<u>関節可動域測定下肢②</u> 足関節、足部の測定方法を理解する。 ※小テスト①	大沼	理学療法評価学第4版 p53	103・4
第4回 4月25日	<u>MMT下肢①</u> 股関節の測定方法を理解する。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	103・4
第5回 5月2日	<u>MMT下肢②</u> 膝関節の測定方法を理解する。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	103・4
第6回 5月9日	<u>MMT下肢③</u> 足関節、足部の測定方法を理解する。 ※小テスト②	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	103・4
第7回 5月16日	<u>まとめ①</u> 下肢の関節可動域測定とMMTの復習	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	103・4
第8回 5月23日	<u>関節可動域測定上肢①</u> 肩関節、肘関節の測定方法を理解する。	大沼	理学療法評価学第4版 p43～46	103・4
第9回 5月30日	<u>関節可動域測定上肢②</u> 前腕、手関節の測定方法を理解する。 ※小テスト③	大沼	理学療法評価学第4版 p47,48	103・4
第10回 6月6日	<u>MMT上肢①</u> 肩甲骨、肩関節の測定方法を理解する。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	103・4
第11回 6月13日	<u>MMT上肢②</u> 肘関節、前腕、手関節の測定方法を理解する。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	103・4
第12回 6月20日	<u>MMT頸部</u> 頸部の測定方法を理解する。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	103・4
第13回 6月27日	<u>MMT体幹</u> 体幹の測定方法を理解する。 ※小テスト④	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	103・4
第14回 7月4日	<u>まとめ②</u> 上肢の関節可動域測定とMMTの復習	赤岩		治療室
第15回 7月11日	<u>整形外科疾患検査</u> 各種検査方法を理解する。	大沼	理学療法評価学第4版 p88～96	103・4
定期試験 7月27日 予定	前期 期末試験			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	運動機能評価学実習	2	60	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年生	赤岩龍士 大沼賢洋 佐藤 梢	解剖学・運動学・機能診断学・運動機能評価学			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	基本的な検査・測定方法の手技を習得する。				
行動目標 (SBO)	①医療人として求められる対人関係技能(コミュニケーション方法)を向上する。 ②四肢長及び周径をメジャー等を用いて正確に測定することができる。 ③ゴニオメーターを用い、関節可動域を正確に測定できる。 ④MMTを教科書に準じ、正確に実施することができる。 ⑤整形外科テストの種類を覚え、基本的な手技を体験する。 ⇒臨床実習Ⅱに備え、上記項目の達成を目標とする				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<ul style="list-style-type: none"> ・本講義では、形態測定、関節可動域測定、筋力測定について実習を行います。理学療法を行う上で、検査測定は最も重要な技術といえ、患者さんがどのような状態にあるのか、どのような治療方法を選択するのか、治療が順調に進んでいるのかを把握するために正確かつ信頼性の高い技術を身に付けることが目標となります。 ・検査測定は、性別や体格の違いなど対象者の身体状況に合わせ実施するので、多くの学生間で練習し、授業時間内でより多くの経験を積むよう心がけましょう。測定方法だけでなく、自分自身の身体の使い方がうまくできない場合などは、放課後など授業時間外でも質問を受け付けます。 ・臨床実習Ⅱで求められる中心的な要素であり、患者さんに対して実施することになりますので、より意識を高め、礼儀や振る舞いなど十分に意識して臨んでください。 					
教科書・参考書					
教科書:理学療法評価学第4版(金原出版) ・ 新・徒手筋力検査法原著第9版(協同医書出版) 参考図書:基礎運動学第6版(医歯薬出版) ・ 図解四肢と脊椎の診かた(医歯薬出版) 1年生機能診断学で使用した配布資料					
受講時留意点、その他					
実技なので、爪を切り、手洗いを済ませて置くようにしてください。服装は動きやすい服装で参加すること。 メジャー、ゴニオメーターは常に持参すること。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	0%				
小テスト	0%				
レポート	0%				
実技試験	0%				
プレゼンテーション	0%				
その他	100%	行動観察:第13.14回、27.28回の講義で、実技の習熟度を確認する。 ⇒内容:第13.14回:下肢ROMt、下肢MMT各1項目、27.28回::上肢ROMt、上肢MMT各1項目 授業内で、礼儀や節度を欠いた態度や常に同じ学生とのみ練習しているなど、指摘の改善がみられない場合は減点の対象となります。			
(合計)	100%				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月4日	形態測定① 四肢長を測定、記録をすることができる。 【キーワード】上肢長、下肢長、左右差	大沼	理学療法評価学第4版 p26～30	治療室 機能訓練室
第2回 4月4日	形態測定② 周径測定を測定、記録をすることができる。 【キーワード】上腕周径、大腿周径、左右差	大沼	理学療法評価学第4版 p30～33	治療室 機能訓練室
第3回 4月11日	関節可動域測定下肢① 股関節の測定、記録をすることができる。	大沼	理学療法評価学第4版 p51,52	治療室 機能訓練室
第4回 4月11日	関節可動域測定下肢② 膝関節の測定、記録をすることができる。	大沼	理学療法評価学第4版 p52	治療室 機能訓練室
第5回 4月18日	関節可動域測定下肢③ 足関節の測定、記録をすることができる。	大沼	理学療法評価学第4版 p53	治療室 機能訓練室
第6回 4月18日	関節可動域測定下肢④ 足部の測定、記録をすることができる。	大沼	理学療法評価学第4版 p53	治療室 機能訓練室
第7回 4月25日	MMT下肢① 股関節屈曲の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第8回 4月25日	MMT下肢② 股関節伸展、縫工筋、外転の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第9回 5月9日	MMT下肢③ 大腿筋膜張筋、股関節内転、外内旋の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第10回 5月9日	MMT下肢④ 膝関節の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第11回 5月16日	MMT下肢⑤ 足関節の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第12回 5月16日	MMT下肢⑥ 足の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第13回 5月21日	まとめ 実技の確認 ※土曜開講	赤岩		治療室 機能訓練室
第14回 5月21日	まとめ 実技の確認 ※土曜開講	赤岩		治療室 機能訓練室
第15回 5月23日	関節可動域測定上肢① 肩関節の測定、記録をすることができる。	大沼	理学療法評価学第4版 p43～46	治療室 機能訓練室
第16回 5月23日	関節可動域測定上肢② 肘関節の測定、記録をすることができる。	大沼	理学療法評価学第4版 p46	治療室 機能訓練室

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第17回 5月30日	関節可動域測定上肢③ 前腕、手関節の測定、記録をすることができる。	大沼	理学療法評価学第4版 p47,48	治療室 機能訓練室
第18回 5月30日	関節可動域測定頸部体幹 頸部体幹の測定、記録をすることができる。	大沼	理学療法評価学第4版 p54～56	治療室 機能訓練室
第19回 6月6日	MMT上肢① 肩甲骨の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第20回 6月6日	MMT上肢② 肩関節の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第21回 6月13日	MMT上肢③ 肘関節の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第22回 6月13日	MMT上肢④ 前腕の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第23回 6月20日	MMT上肢⑤ 手関節の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第24回 6月20日	MMT頸部 頸部の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第25回 6月27日	MMT体幹 体幹の測定、記録をすることができる。	赤岩	新・徒手筋力検査法 第9版	治療室 機能訓練室
第26回 6月27日	総合実技練習 上下肢の関節可動域測定、MMTを復習する。	赤岩		治療室 機能訓練室
第27回 7月4日	まとめ 実技の確認	赤岩		治療室 機能訓練室
第28回 7月4日	まとめ 実技の確認	赤岩		治療室 機能訓練室
第29回 7月11日	整形外科疾患検査上肢 各検査手技を実施することができる。	大沼	理学療法評価学第4版 p88～91	治療室 機能訓練室
第30回 7月11日	整形外科疾患検査下肢 各検査手技を実施することができる。	大沼	理学療法評価学第4版 p91～96	治療室 機能訓練室
定期試験	定期試験期間中の試験は実施しない			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	神経機能評価学	2	30	必須	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年	片平美紀・渡邊祥子・三田久哉	神経内科学、神経機能評価学実習、理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	神経学的検査の結果が理解できるようになるために、各種検査の方法と注意点、検査の意義や反応の仕組みについて理解する。				
行動目標 (SBO)	①反射検査の種類と注意点が言える。 ⑤感覚検査の種類と注意点が言える。 ②反射のメカニズムが説明できる。 ⑥伝導路から感覚障害の出現の仕方が言える。 ③反射検査の意義が言える。 ⑦各種脳神経の働きと検査方法が言える。 ④筋緊張の検査方法が言える。 ⑧協調性の定義と検査方法が言える。 ⑤筋緊張の異常を表現できる。 ⑨バランスの定義と検査方法が言える。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>この科目は神経が障害を受けることで出現する症状を検査にて確認し、それぞれの結果を合わせ身体に何が起きているのか、今後どうなるのかを考察できるようになるための基礎的学問です。</p> <p>神経学的評価と聞くと「中枢神経疾患」や「神経・筋疾患」が思い浮かびますが、「整形外科的疾患」で神経症状を伴う方に対しても行います。そのため神経の解剖生理学が理解できていることが前提となります。理解が足りていない場合は自己学習をして下さい。分からないことはそのままにせず、担当教員に尋ねて理解を深めて下さい。</p>					
教科書・参考書					
教科書	ベ:『ベッドサイドの神経の診かた』(南山堂)	病:『病気が見えるVol7脳・神経』(メディックメディア)			
参考書	理:『理学療法評価学』(金原出版)	基:『基礎運動学』(医歯薬出版)			
受講時留意点、その他					
<p>授業は受け身にならず自ら積極的に考えて下さい。予習復習を怠らないようにしましょう。</p> <p>教科書が何冊かあります。突然使うこともありますので、大変かもしれませんが持参して下さい。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	前期末試験にて評価します。 最終評定は学則第4章、成績の評価に準じます。			
小テスト	*	随時確認テストを行いますが、成績には含まず学習状況の振り返りのために実施します。			
レポート	0				
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他	0				
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月5日	コースオリエンテーション、反射検査概要 反射検査の種類を知る。 【キーワード】深部腱反射・表在反射・病的反射・反射検査の注意点	片平	べpp65～89 理pp109～ 121	103・4
第2回 4月12日	反射のメカニズム 各反射の伝導路を説明できる。 【キーワード】筋紡錘、求心路、遠心路、反射中枢	渡邊	病pp178 基pp117～ 125	107・8
第3回 4月19日	反射検査の意義 反射検査の意義を学び、反射検査の結果からの病巣部位を予測し、説明できる知識を備える。	渡邊	べpp89～91 病pp178～ 181	107・8
第4回 4月26日	筋緊張検査概要 筋緊張検査の方法と筋緊張の異常が分かる。 【キーワード】被动性検査、懸振性検査、筋硬直の検査、痙縮、固縮、低下	片平	べpp35～40	103・4
第5回 5月17日	筋緊張(筋トーン)のメカニズム 筋緊張が生じるメカニズムを説明できる。 【キーワード】 α 、 γ 運動線維、前角細胞	片平	理pp167,168 基pp119～ 122	103・4
第6回 5月24日	筋緊張(筋トーン)異常と臨床所見 筋緊張異常によって生じる所見を理解し、鑑別方法を説明できる。 【キーワード】痙縮、固縮、速度依存性、相動性	片平	病pp173～174	107・8
第7回 5月28日	感覚検査概要 感覚の種類と検査方法を理解する。 【キーワード】表在感覚、深部感覚、複合感覚	片平	べpp93～100 理pp103～ 108	107・8
第8回 6月7日	伝導路からみる感覚障害① 感覚の伝導路を理解し、障害部位から感覚障害が推測できる。 【キーワード】後索路、外側脊髄視床路、デルマトーム、半側障害	渡邊	病pp188～ 201	107・8
第9回 6月14日	伝導路からみる感覚障害② 感覚の電導路を理解し、障害部位から感覚障害が推測できる。 【キーワード】Brown Sequard症候群、中心性灰白質障害、Wallenberg症候群	渡邊	病pp188～ 201 べpp189～ 196	103・4
第10回 6月21日	脳神経① 脳神経核の場所、脳神経が通る孔など脳神経の概要を理解する。 第Ⅰ、Ⅱ脳神経の伝導路を理解し、障害された際の症状が説明できる。 第Ⅰ、Ⅱ脳神経検査の方法や注意点を理解する。	渡邊	病pp212～ 217	103・4
第11回 6月28日	脳神経② 第Ⅲ～Ⅶ脳神経の伝導路を理解し、障害された際の症状が説明できる。 第Ⅲ～Ⅶ脳神経検査の方法や注意点を理解する。	渡邊	病pp217～ 233	107・8
第12回 7月5日	脳神経③ 第Ⅷ～Ⅻ脳神経の伝導路を理解し、障害された際の症状が説明できる。 第Ⅷ～Ⅻ脳神経検査の方法や注意点を理解する。	渡邊	病pp234～ 245	103・4
第13回 7月12日	協調性検査 協調性の定義を理解し、協調性障害とその評価について学ぶ。 【キーワード】運動失調、共同運動障害、測定障害、変換運動障害	三田	べpp141～ 155 理pp157～ 166	103・4
第14回 7月19日	バランス検査 バランス検査の方法を理解する。 【キーワード】バランスの定義、立ち直り反射、Romberg試験、Mann試験、片足立ち試験、FRT、TUGテスト、FBS	三田	べpp58～64 理pp163～ 165	103・4
第15回 7月20日	復習 第1～14回までの内容を振り返る。	渡邊	上記全範囲	107・8
定期試験	前期期末試験	片平	上記全範囲	107・8

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入										
専門	神経機能評価学実習	1	30	必修	—										
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目													
理学療法学科2年	渡邊祥子・三田久載・片平美紀	神経内科学、神経機能評価学、理学療法評価学 I													
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示															
一般目標 (GIO)	神経学的検査が実施できるようになるために、神経学的検査の方法を身に着ける。														
行動目標 (SBO)	<table border="0"> <tr> <td>①腱反射・病的反射が実施できる</td> <td>⑥協調性検査が実施できる</td> </tr> <tr> <td>②腱反射の増強法が実施できる</td> <td>⑦バランス検査が実施できる</td> </tr> <tr> <td>③表在・深部感覚検査が実施できる</td> <td>⑧検査結果を記録することができる</td> </tr> <tr> <td>④触診・被動性検査が実施できる</td> <td>⑨検査結果について解釈することができる</td> </tr> <tr> <td>⑤脳神経検査が実施できる</td> <td>⑩対象者の安楽と自身の立ち位置に配慮できる</td> </tr> </table>					①腱反射・病的反射が実施できる	⑥協調性検査が実施できる	②腱反射の増強法が実施できる	⑦バランス検査が実施できる	③表在・深部感覚検査が実施できる	⑧検査結果を記録することができる	④触診・被動性検査が実施できる	⑨検査結果について解釈することができる	⑤脳神経検査が実施できる	⑩対象者の安楽と自身の立ち位置に配慮できる
①腱反射・病的反射が実施できる	⑥協調性検査が実施できる														
②腱反射の増強法が実施できる	⑦バランス検査が実施できる														
③表在・深部感覚検査が実施できる	⑧検査結果を記録することができる														
④触診・被動性検査が実施できる	⑨検査結果について解釈することができる														
⑤脳神経検査が実施できる	⑩対象者の安楽と自身の立ち位置に配慮できる														
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など															
<p>実際に神経学的検査を実施していきます。検査結果の正確性を上げるために、多くの注意点が存在します。注意点を守れるようになるためには、正しい方法で沢山練習をすることしかありません。学生同士で練習を行うと、その注意点がおざなりになります。担当教員に確認してもらうのが上達の早道です。授業時間外で練習を行って下さい。</p>															
教科書・参考書															
教科書 松澤正, 江口勝彦著 理学療法評価学 改訂第4版 (金原出版) 参考書 田崎義昭, 斎藤佳雄著 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 (南山堂)															
受講時留意点、その他															
<p>身だしなみに注意して受講して下さい。 感染症予防習慣化のため、授業前に手洗いを実施し、実技相手が変わるごとに手指はアルコール消毒をしましょう。 衛生面に配慮(床に膝をつかない。床に物を置かないなど)しましょう。 実習中は患者に対して実施しているものと考え、真剣に取り組んで下さい。 提出物を忘れた場合や指定の用紙で提出されなかった場合は、減点対象となります。丁寧に扱い授業の最後に必ず提出して下さい。</p>															
成績評価方法															
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など													
定期試験	0														
小テスト	0														
レポート	0														
実技試験	0														
行動観察	90	チェックリストの到達度(授業中に教員がチェックする)													
その他	10	提出物													
(合計)	100														

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月6日	コースオリエンテーション、反射(腱反射) 深部腱反射を実際に行う。 【キーワード】上腕二頭筋反射、上腕三頭筋反射、腕橈骨筋反射 膝蓋腱反射、アキレス腱反射	渡邊	109～121	治療室
第2回 4月13日	反射(表在反射・病的反射) 表在反射の方法を確認し、病的反射を実際におこなう。 【キーワード】ホフマン反射、トレムナー反射、バビンスキー反射	渡邊	109～121	治療室
第3回 4月20日	反射(記載) 深部腱反射、病的反射を行い記録を取る。	渡邊	109～121	治療室
第4回 4月27日	筋緊張(触診と被動性検査) 筋緊張を実際に確認していく。 【キーワード】触診、視診、被動性検査	片平	167～174	治療室
第5回 5月11日	筋緊張(懸振性・筋硬直・伸展性検査) 筋緊張を実際に確認していく。 【キーワード】懸振性検査、筋硬直の検査、伸展性の検査	片平	167～174	治療室
第6回 5月18日	反射と筋緊張 反射検査と筋緊張検査を一連の流れで行い、 【キーワード】深部腱反射、病的反射、被動性検査	渡邊	109～121 167～174	治療室
第7回 5月25日	感覚検査(表在感覚) 表在感覚検査を実際に行う。 【キーワード】触覚、痛覚、温度覚	渡邊	101～108	治療室
第8回 6月1日 5月31日	感覚検査(深部感覚) 深部感覚検査を実際に行う。 【キーワード】位置覚、運動覚、振動覚	渡邊	101～108	治療室
第9回 6月8日	感覚検査(複合感覚・記載) 複合感覚検査を実際に行う。感覚検査を行い記録する。 【キーワード】2点識別覚、皮膚書字試験、立体覚	渡邊	101～108	治療室
第10回 6月15日	感覚検査(症例) 感覚障害から検査法を選択し実施する。 【キーワード】半側障害、横断性障害、末梢神経障害	渡邊	101～108	治療室
第11回 6月22日	演習 反射、筋緊張、感覚検査を一連の流れで行う。	渡邊	101～121 167～174	治療室
第12回 6月29日	脳神経検査① 第Ⅰ～Ⅻ脳神経検査を実際に行う。	三田	199～207	治療室
第13回 7月6日	脳神経検査② 第Ⅰ～Ⅻ脳神経検査を実際に行う。	三田	199～207	治療室
第14回 7月13日	協調性検査 協調性検査を実際に行う。 【キーワード】運動失調検査、共同運動障害、測定障害、 変換運動障害、はね返り現象	片平	157～166	治療室
第15回 7月20日	バランス検査 バランス検査を実際に行う。 【キーワード】Romberg試験、Mann試験、片足立ち試験、FRT TUGテスト、FBS	片平	157～166	治療室
定期試験 —	なし			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	動作分析学実習	1	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年生	三田久載	運動学・解剖学 I ・解剖学実習			
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	動作観察・分析の進め方について学ぶ。				
行動目標 (SBO)	①「姿勢」を運動学用語で表現できる。 ②「動作」を運動学用語で表現できる。 ③異常姿勢・動作を模倣できる。 ④異常姿勢・動作を専門用語で表現できる。 ⑤観察の手順を理解する。 ⑥観察した結果を書式を整えて記録できる。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>動作分析は理学療法士が臨床で行う評価の一つです。本講義では動作分析をするために必要な、観察から観察結果の記録までの一連の方法について、起居動作・歩行を中心に学んでいきます。運動のメカニズムについては、すでに運動学で学んでいますが、本講義で今一度「運動・動作の観察」について学習し、その手順を把握することが目標となります。今までに学んだことが基礎となりますので、その知識を使いながら観察の技術を身につけることを意識しながら受講できると良いでしょう。見方が分からない、記録方法が分からない等あるようでしたら随時相談に来てください。</p>					
教科書・参考書					
教科書:基礎運動学 第6版補訂(医歯薬出版株式会社) 参考図書:臨床運動学 第3版(医歯薬出版株式会社)、 観察による歩行分析(医学書院)、臨床動作分析マニュアル(文光堂) など					
受講時留意点、その他					
<p>身体の動きの観察が中心となりますので、Tシャツ・ハーフパンツ等上下肢を視診できる服装で参加して下さい。また、頭髮・爪など身だしなみにも十分留意をしてください。運動学等で学んだ内容を適宜参考にし、理解を深めましょう。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験					
小テスト		第1回に運動学の基礎知識を確認する。前期に事前アナウンスし、成績不良者は補習もしくは課題で対応する。			
レポート	15%	各授業でまとめを行い、第5回・第9回・第13回の各単元の終わりに、授業内容の総まとめを提出			
実技試験					
プレゼンテーション					
その他	85%	15回目に実施する、VTRを使用した動作分析(観察)の記録をもとに、習熟度を確認する。 科目に対する興味、関心、学習に対する積極性が良好な場合、加点の対象とすることがある。正当でない理由での欠席は減点の対象とすることがある。			
(合計)	100%				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 8月29日	オリエンテーション・動作分析の基礎 動作観察・分析の基礎、運動学的用語について理解する	三田	配布資料	107
第2回 9月5日	座位(立ち上がり)① 座位姿勢・立ち上がり動作を観察し、運動学的記載をする	三田	配布資料	機能訓練室
第3回 9月12日	座位(立ち上がり)② 立ち上がり動作の違いを、運動学的記載のバリエーションで表現できる	三田	配布資料	機能訓練室
第4回 9月26日	座位(立ち上がり)③ 立ち上がり動作を臨床運動学的分析に理解する	三田	配布資料	機能訓練室
第5回 10月3日	座位(立ち上がり)④ 立ち上がり動作を観察し、臨床運動学的に記載できる	三田	配布資料	機能訓練室
第6回 10月17日	臥位(起き上がり)① 起き上がり動作の観察と、運動学的記載をする	三田	配布資料	機能訓練室
第7回 10月24日	臥位(起き上がり)② 起き上がり動作の違いを、運動学的記載のバリエーションで表現できる	三田	配布資料	機能訓練室
第8回 10月31日	臥位(起き上がり)③ 起き上がり動作を臨床運動学的に理解する	三田	配布資料	機能訓練室
第9回 11月7日	臥位(起き上がり)④ 起き上がり動作を観察し、臨床運動学的に記載できる	三田	配布資料	機能訓練室
第10回 11月14日	歩行① 歩行を観察し、運動学的記載が出来る	三田	配布資料	機能訓練室
第11回 11月21日	歩行② 歩行の違いを、運動学的記載のバリエーションで表現できる	三田	配布資料	機能訓練室
第12回 11月28日	歩行③ 歩行を臨床運動学的に理解する	三田	配布資料	機能訓練室
第13回 12月5日	歩行④ 歩行を観察し、臨床運動学的に記載できる	三田	配布資料	機能訓練室
第14回 12月12日	動作分析の記録の実際 VTRを見ながら、書式に合わせて分析を記録できる	三田	配布資料	107
第15回 12月19日	まとめ(VTRにおける動作分析)	三田	配布資料	107
定期試験				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	理学療法評価学 I	1	45	必修	
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年生	植田英則 三田久載 大沼賢洋	運動機能評価学、神経機能評価学			
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	代表的な疾患を通して、今まで学習してきた知識、技術を整理する。				
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価の目的が理解できる。 2. 評価対象の障害構造について説明できる。 3. 評価対象に妥当性のある検査測定を選択し実施・評価できる。 4. 評価報告書を作成することが出来る 5. 臨床思考能力を構築する。 6. リスク管理をすることができる。 				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業は仮想症例を通してこれまで学んできた検査測定を選択し、実施していきます。2年前期で学んだ評価学をよく復習し、授業に臨むこと。 2. 症例の疾患特性や個別性を把握し、リスクに考慮しながら評価を進められるよう専門基礎分野についても復習すること。 3. 授業中の実技練習では技術の習得は不十分であるため、放課後等利用し各自実技練習を進めること。その際、担当教員に事前にアポイントをとっていただければ実技練習につき直接指導します。 4. グループ毎に取り組む授業もあり、その授業では3年生の協力・指導によって行われます。3年生の協力と指導に感謝し、グループ内での協調性を大切にして、授業に取り組んでください。 					
教科書・参考書					
指定はない。参考・引用文献は随時紹介する。					
受講時留意点、その他					
実技の際はジャージまたは実習着を着用のこと。Tシャツは無地の白・紺・灰・黒とする(ワンポイントは可)。靴は白、靴下白(ワンポイントは可)で臨むこと。爪を切り、手洗いを済ませておくこと。本科目と「理学療法評価学Ⅱ」を合わせて、H21-24 入学者の「理学療法評価学」に読み替えます。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	0				
小テスト	0				
レポート	30	授業時間内に仮想症例提示した症例を報告書として提出。			
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他	70	実技確認の内容を点数化し算出する。実技確認する症例と問題を2週間前までに提示する。実技確認の質問は1週間前まで受け付ける。			
(合計)	100				

回数 目付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 8月24日	臨床思考中枢疾患① 提示された仮想症例の評価項目を挙げるができる。	三田		機能訓練室
第2回 8月31日	臨床思考中枢疾患② 評価を実施する際のリスクを挙げるができる。	三田		機能訓練室
第3回 9月7日	臨床思考中枢疾患③ 計画した評価を実施することができる。	三田		機能訓練室
第4回 9月21日	臨床思考中枢疾患④ 計画した評価を実施することができる。	三田		機能訓練室
第5回 9月27日	臨床思考中枢疾患⑤ 実施した内容から信頼性、妥当性を検討することができる。	三田		機能訓練室
第6回 10月5日	臨床思考中枢疾患⑥ 検討した内容から再評価を実施することができる。	三田		治療室
第7回 10月5日	臨床思考整形外科疾患① 提示された仮想症例の評価項目を挙げるができる。	植田		機能訓練室
第8回 10月12日	模擬症例① 模擬症例の進め方について説明を行う。グループ分け、症例提示を行なう。	大沼		103
第9回 10月19日	臨床思考整形外科疾患② 評価を実施する際のリスクを挙げるができる。	植田		治療室
第10回 10月19日	模擬症例② 模擬患者のカルテを閲覧し、評価項目、実施方法について検討する。	大沼		107
第11回 10月26日	臨床思考整形外科疾患③ 計画した評価を実施することができる。	植田		機能訓練室
第12回 11月2日	模擬症例③ 評価を実施する。①(3年生被験者協力)	大沼		講堂
第13回 11月4日	模擬症例④ 実施した評価を記録する。	大沼		101
第14回 11月8日	模擬症例⑤ 評価を実施する。②(3年生被験者協力)	植田		機能訓練室 OT実習室2 装具加工室
第15回 11月9日	臨床思考整形外科疾患④ 計画した評価を実施することができる。	植田		治療室

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第16回 11月14日	模擬症例⑥ 評価を実施する。③(3年生被験者協力)	大沼		治療室 OT実習室2 装具加工室
第17回 11月16日	臨床思考整形外科疾患⑤ 実施した内容から信頼性、妥当性を検討することができる。	植田		治療室
第18回 11月18日	模擬症例⑦ 実施した評価を症例検討会用紙にまとめる。	大沼		装具加工室
第19回 11月30日	臨床思考整形外科疾患⑥ 検討した内容から再評価を実施することができる。	植田		治療室
第20回 12月7日	実技確認① 中枢神経疾患、整形外科疾患の症例を提示し、いずれかを実施する。	植田三田		治療室/機能 訓練室/基礎 医学実習室 /OT実習室2
第21回 12月7日	実技確認② 中枢神経疾患、整形外科疾患の症例を提示し、いずれかを実施する。	植田三田		治療室/機能 訓練室/基礎 医学実習室 /OT実習室2
第22回 12月7日	まとめ① 中枢神経疾患、整形外科疾患の評価の進め方についてまとめる。	植田三田		治療室 機能訓練室
第23回 12月14日	模擬症例⑧ OT学科の学生とカンファレンス形式で症例検討会を実施する。	大沼三田 植田		103,4,5,6,7, 8,

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	理学療法評価学Ⅱ	1	30	必修	-
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年生	渡邊祥子・片平美紀 大沼賢洋・佐藤梢	運動機能評価学、神経機能評価学、骨関節疾患PT学、 中枢神経疾患PT学、理学療法評価学Ⅰ			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	代表的な疾患を通して、今まで学習してきた知識を整理する。				
行動目標 (SBO)	1. 診療記録の記載方法を理解できる。 2. 評価の目的が理解できる。 3. 評価対象の障害構造について説明できる。 4. 症例報告書を作成することができる。 5. 他者のアドバイスを受け入れる姿勢を示すことができる。 6. アドバイスを受けるためのアポイントメントを取りに来ることができる。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
1. この授業は仮想症例を通してこれまで学んできた検査測定を選択していく。2年前期で学んだ評価学をよく復習し、授業に臨むこと。 2. 症例の疾患特性や個別性を把握し、リスクに考慮しながら問題点とゴール設定ができるよう専門基礎分野についても復習すること。 3. 授業のみで報告書完成は難しいと思われる。そのため放課後等を利用し評価報告書の作成を行うこと。 4. 症例報告書は随時担当教員がアドバイスするが、事前にアポイントメントを取ること。また締切直前はアドバイスしないこと、締切以降は絶対に受け取らないため、締切日とアドバイスできる期間について注意すること。					
教科書・参考書					
配布資料。参考・引用文献は随時紹介する。					
受講時留意点、その他					
この授業で取り扱う情報は個人情報である。仮想症例であっても実在しているものとし、取扱いには十分注意すること。報告書作成時に扱うデータは、紛失や流出しないようしっかり管理すること。特にUSBの扱いに気を付けること。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	0				
小テスト	0				
レポート	100	授業時間内に提示した症例を報告書として提出。			
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他	※	授業内で、周囲に対しての迷惑行為、居眠りは減点の対象となります。			
(合計)	100				

回数 目付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 8月24日	オリエンテーション、臨床実習に向けた心構え 臨床場面に立つ心構えと、評価していく際に必要な知識を復習する。 【キーワード】リスク管理、個人情報保護	片平	配布資料	103
第2回 8月31日	レジュメとは、診療記録とは 理学療法士の業務である診療記録(カルテ)の書き方について学ぶ。 【キーワード】レジュメの構成、SOAP	渡邊	配布資料	103
第3回 9月7日	評価演習Ⅰ 評価項目の選択・整形疾患 症例を通りて必要な評価項目を選択し、その理由づけと評価する順番について考える。	渡邊・大沼	配布資料	103
第4回 9月14日	評価演習Ⅱ 検査結果記録・整形疾患 症例の評価結果一覧から、症例報告書を作成する。 【キーワード】Microsoft Word、図、パスワード	大沼・渡邊	配布資料	PC室
第5回 9月21日	評価演習Ⅲ 問題点抽出①・整形疾患 症例の評価結果から、問題点を抽出する。 【キーワード】ICF、ICIDH	渡邊・大沼	配布資料	103
第6回 9月28日	評価演習Ⅳ 問題点抽出②・整形疾患 症例報告書を作成する。 【キーワード】ICF、ICIDH	大沼	配布資料	PC室
第7回 10月5日	評価演習Ⅴ 考察作成①・整形疾患 目標設定を決め、症例の状態と問題点について考える。 【キーワード】LTG、STG	大沼	配布資料	PC室
第8回 10月12日	評価演習Ⅵ 考察作成②・整形疾患 目標設定を決め、症例の状態と問題点について考える。 【キーワード】LTG、STG	大沼	配布資料	PC室
第9回 10月19日	評価演習Ⅶ 評価項目の選択・中枢疾患 症例を通りて必要な評価項目を選択し、その理由づけと評価する順番について考える。	片平	配布資料	103
第10回 10月26日	評価演習Ⅷ 検査結果記録・整形疾患 症例の評価結果一覧から、症例報告書を作成する。 【キーワード】レジュメ、Microsoft Word、図、パスワード	片平	配布資料	PC室
第11回 11月2日	評価演習Ⅸ 問題点抽出①・中枢疾患 症例の評価結果から、問題点を抽出する。 【キーワード】ICF、ICIDH	片平	配布資料	103
第12回 11月9日	評価演習Ⅹ 問題点抽出②・中枢疾患 症例報告書を作成する。 【キーワード】ICF、ICIDH	片平	配布資料	PC室
第13回	評価演習Ⅺ 考察作成①・中枢疾患 目標設定を決め、症例の状態と問題点について考える。 【キーワード】LTG、STG	片平	配布資料	PC室
第14回 11月25日	評価演習Ⅻ 考察作成②・中枢疾患 目標設定を決め、症例の状態と問題点について考える。 【キーワード】LTG、STG	片平	配布資料	PC室
第15回 12月9日	まとめ 中枢・整形疾患を通して作成した症例報告書について総評する。	渡邊・大沼	配布資料	103
定期試験	なし	—	—	—

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	運動療法学	2	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科 2年	宮下 正好 / 植田 英則 佐藤 梢 / 内田 成男	解剖学実習、運動学、運動療法学実習、運動機能評価学、骨・関節疾患理学療法学 など			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	各種運動療法の理論・目的・方法・適応について理解する。				
行動目標 (SBO)	1. 関節可動域運動の理論、実際を理解する。 2. 筋力増強運動の理論、実際を理解する。 3. 全身持久運動 等その他の代表的な運動療法の理論、実際を理解する。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>現代の理学療法において運動療法学は最も大きな比重を占める治療技術です。疾患ごとの治療学(骨・関節疾患理学療法学、中枢神経疾患理学療法学 など)の中でも学んでいくので、この授業では運動療法において最も基本的な技術である関節可動域運動、筋力増強運動を中心に学習します。</p> <p>この授業は、「運動療法学実習」と並行して進んでいきます。運動療法学で学んだ内容は、実習前に復習しておくように心がけましょう。また、解剖学・運動学の知識は運動療法学の基盤なので、これら科目の復習も同時にできると良いでしょう。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書： 市橋則明(編):運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版. 文光堂. 2014。</p> <p>参考書： 千住秀明(監):理学療法学テキストⅢ 運動療法Ⅰ.第2版. 神陵文庫. 2005</p> <p>吉尾雅春(編):標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論. 第3版. 医学書院. 2010</p> <p>石川 朗(編):理学療法テキスト 運動療法学. 中山書店. 2014</p> <p>石川 朗(編):理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸. 中山書店. 2010</p>					
受講時留意点、その他					
<p>1. 授業は真剣に受講すること。</p> <p>2. 授業冒頭でキーワード、行動目標を提示するので確認の上、受講すること。</p> <p>3. 理解不十分な部分はそのままにせず、担当教員に相談すること。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	前期末試験を実施する。60点以上を合格の目安とする。 第1回～第15回全ての内容から出題する。			
小テスト	0	第14回、第15回で問題演習(範囲は次ページ)と解説を行う。原則として成績評価に参入しない。ただし、故意の白紙提出、明らかに日頃の復習を怠っていると推察される解答内容などは減点の対象とする場合がある。			
レポート					
実技試験					
プレゼンテーション					
その他	*	授業中の積極的な発言は加点の対象とする。 授業に対する迷惑行為(飲食、携帯電話等の使用、私語、授業内容のSNSへの書き込みなど)、居眠り、正当でない理由での欠席・遅刻 などは減点の対象とする。			
(合計)	100				

回数 目付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4/7 (木)	運動療法の基礎知識 運動療法の概念を理解する。運動療法に必要な機能解剖を復習する。【キーワード】対象疾患、リスク管理、機能解剖	植田	P2～42	
第2回 4/14 (木)	関節可動域運動①:基礎知識 関節可動域運動に必要な基礎知識を述べるができる。【キーワード】関節の形状、基本構造、エンドフィール	植田	p43～68	
第3回 4/20 (水)	関節可動域運動②:実施の注意点 制限因子に対してから適切な治療手技を選択することができる。【キーワード】凹凸の法則、関節面、並進運動	植田	P186～220	
第4回 4/26 (火)	老化と運動機能 運動と加齢の関連について理解し、適切な運動療法を選択することができる。【キーワード】筋力低下、骨量減少、転倒	植田	P175～183 P502～516	
第5回 5/12 (木)	筋の構造と機能 筋収縮の機序と、筋力を規定する因子を理解する。【キーワード】興奮収縮連関・形態要因・神経要因・筋線維組成	宮下	p69～78	
第6回 5/17 (火)	筋力トレーニングの原則、分類 筋力増強運動の基礎理論を学ぶ。【キーワード】原則・条件・最大筋力法・最大反復法・筋持久力	佐藤	p224～228	
第7回 5/19 (木)	筋力トレーニングの実際:非荷重位 非荷重位での筋力増強運動の実際を学ぶ。【キーワード】中殿筋・大腿四頭筋(SLR,PS)・棘上筋・棘下筋	宮下	P228～234 p237～242	
第8回 5/28 (土)	筋力トレーニングの実際:荷重位 荷重位での筋力増強運動の実際を学ぶ。【キーワード】ペダリング・スクワット・立ち上がり・股外転筋CKC	佐藤	P238～234 p237～246	
第9回 6/9 (木)	持久力の低下 全身持久力の概念と評価方法を学ぶ。【キーワード】全身持久力・運動負荷試験・局所持久力	宮下	p253～267	
第10回 6/23 (木)	全身持久力トレーニング 全身持久力トレーニングの方法を学ぶ。【キーワード】強度・効果・持続法・インターバル法	宮下	p253～267	
第11回 6/15 (水)	中枢性麻痺の運動療法 脳卒中、脊髄障害、脳性麻痺等に対する運動療法について学ぶ【キーワード】痙縮、固縮、神経生理学的アプローチ	内田 (副学校長)	p269～	
第12回 6/25 (土)	運動学習 運動学習の理論と臨床応用について学ぶ【キーワード】運動学習理論、学習段階、学習曲線、フィードバック、他	内田 (副学校長)	P135～	
第13回 6/25 (土)	呼吸理学療法:排痰法 排痰の理論と方法を学ぶ。【キーワード】排痰に必要な要素・体位排痰法	宮下	p435～437	
第14回 7/14 (木)	関節可動域運動 第1回～第4回の内容で問題演習と解説を行う。関節可動域運動について知識の点検をする。	佐藤		
第15回 7/21 (木)	筋力増強運動 第5回～第8回の内容で問題演習と解説を行う。筋力増強運動について知識の点検をする。	佐藤		
定期試験	前期末試験			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	運動療法学実習	1	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年	植田英則・宮下正好 内田成男・佐藤梢	解剖学Ⅰ・Ⅱ、解剖学実習、運動学、運動療法学、運動機能評価学など			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	関節可動域運動、筋力増強など、基本的な運動療法を実践することができる。				
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 標準予防対策ができる。 2. 運動療法に必要な基礎知識を述べるができる。 3. 適切な治療手技を選択できる。 4. 運動療法の基礎的技術を対象者に対し、正確に実践することができる。 				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動療法学での授業とリンクし進めていきます。講義内容を一度復習してから授業に臨むと理解が深まります。 2. 理学療法の実習の基礎となります。ここで症例の触れ方、肢位のとり方、セラピストの安定した姿勢、動かし方、力の入れ方をしっかり学んでください。 3. 授業中の実技練習だけでは技術の習得は不十分であるため、放課後等利用し各自実技練習を進めること。その際、担当教員に事前にアポイントをとっていただければ実技練習につき直接指導します。 					
教科書・参考書					
教科書 市橋則明編集 運動療法学第2版 障害別アプローチの理論と実際 文光堂 2014 石川朗総編集 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸 中山書店 参考書 千住秀明監修 理学療法テキストⅢ 運動療法Ⅰ 第2版 神陵文庫 2005 吉尾雅春編集 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論 第3版 医学書院 2010					
受講時留意点、その他					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習中は病院・施設内と思い真剣に取り組むこと。 2. 相手は学生ではなく患者さんや利用者の方であるとの認識で授業に臨むこと。 3. 自分の周りを動きやすく、また周りを見て全員が動きやすくなるように環境環境整備に留意すること。 4. 授業前に手洗いをし、血圧・脈拍測定、体調聴取を実習相手と互いにして実習に臨むこと。 					
成績評価方法					
評価方法	評価割合 (%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	0				
小テスト	0				
レポート	0				
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他	100	実技技能の確認実施。2週間前に課題と確認ポイントを提示する。学生を被験者とし、実施する。			
(合計)	100				

回数 目付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4/7(木)	コースオリエンテーション ROM exercise① 感染症対策・バイタルチェック測定方法を確認する。ROMexの基本事項を理解する。上肢のROMexを実施する。	植田	P186～220	機能訓練室
第2回 4/14(木)	ROM exercise、ストレッチング法② 上肢のROMexやストレッチングを実施する。 【キーワード】肩甲骨、肩甲上腕関節、肘関節、手関節、手指	植田	P186～220	機能訓練室
第3回 4/21(木)	ROM exercise、ストレッチング法③ 下肢のROMexやストレッチングを実施する。 【キーワード】股関節、膝関節、足関節、足部	植田	P186～220	機能訓練室
第4回 4/28(木)	ROM exercise、ストレッチング法③ 頭頸部・体幹のROMexを実施する。 【キーワード】頭部、頸部、体幹	植田	P186～220	機能訓練室
第5回 5/12(木)	筋力増強運動 ①；運動の種類 基本的な運動と抵抗のかけ方を学ぶ。 【キーワード】自動運動・自動介助運動・抵抗運動	宮下	P228～234 p237～242	機能訓練室
第6回 5/19(木)	筋力増強運動 ②；筋力に応じた運動 筋力に応じた肢位、筋収縮の選択を学ぶ。 【キーワード】MMT・等尺性収縮・求心性収縮・遠心性収縮	宮下	P228～234 p237～242	機能訓練室
第7回 5/26(木)	筋力増強運動 ③；非荷重位での筋力増強運動 非荷重位での筋力増強運動の実際を学ぶ。 【キーワード】中殿筋・大腿四頭筋(SLR,PS)・棘上筋・棘下筋	宮下	P228～234 p237～242	機能訓練室
第8回 6/2(木)	筋力増強運動 ④；荷重位での筋力増強運動 荷重位での筋力増強運動の実際を学ぶ 【キーワード】ペダリング・スクワット・立ち上がり・股外転CKC	宮下	P238～234 p237～246	機能訓練室
第9回 6/9(木)	全身持久力(運動耐容能)の評価 全身持久力の評価方法を学ぶ。 【キーワード】運動負荷試験・多段階負荷・換気性作業閾値	宮下	p253～267	機能訓練室
第10回 6/16(木)	全身持久カトレーニング 運動処方と全身持久カトレーニングの方法を学ぶ。 【キーワード】カルボーネン法・持続法・インターバル法	宮下	p253～267	機能訓練室
第11回 6/22(水)	神経筋再教育・神経生理学的アプローチ 代表的なアプローチ方法(促通と抑制)について学ぶ 【キーワード】PNF法、Brunnstrom法、Bobathコンセプト、CI療法など	内田	P269～ P282	機能訓練室
第12回 6/25(土)	運動学習理論 運動学習理論を応用した運動療法(歩行訓練中心)について学ぶ。 【キーワード】課題指向型訓練、フィードバック、動機づけ、練習方法など	内田	P135～160	機能訓練室
第13回 6/25(土)	呼吸理学療法;排痰法 体位排痰法を実践して覚える。スクイーピングを体験する。	宮下	P435～438	機能訓練室
第14回 7/14(木)	関節可動域運動、筋力トレーニングの復習 具体的な機能障害の例を挙げ、実践する。	佐藤		機能訓練室
第15回 7/21(木)	実技技能の確認 対象者に対して基本的な関節可動域運動・筋力増強運動を実施する。	植田 宮下 佐藤		機能訓練室
定期試験				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	中枢神経疾患理学療法学	4	60	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年	内田成男、片平美紀	機能診断学、脳神経外科学、神経内科学、神経機能評価学、臨床理学療法学実習、運動療法学、他			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	脳血管障害に対する理学療法評価および治療について理解し、基本的な技術を実践できる。				
行動目標 (SBO)	1. 中枢神経系(特に脳)の機能解剖について説明できる。(前期) 2. 脳血管障害(脳卒中)の基本的な病理および障害像が理解できる。(前期) 3. 脳血管障害(脳卒中)に対する理学療法評価について説明できる。(前期、後期) 4. 脳血管障害(脳卒中)の片麻痺運動機能検査などの検査測定が実践できる。(後期) 5. 脳血管障害(脳卒中)に対する基本的な理学療法が実施できる。(後期)				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>この授業は理学療法の主要な対象疾患である脳血管障害について、医学的な基礎知識から理学療法の評価から治療までを通年で学習していきます。1年生で学んだ解剖学、生理学などを振り返り、また、脳外科学、神経内科学などの臨床医学の知識も踏まえて、授業に臨んでください。前期では基礎知識の復習をしつつ、脳血管障害について原因・病態・医学的管理・障害像把握までをしっかり身に付けていきます。後期では前期に学んだことを再確認し、理学療法評価と治療の実践を学んでいきます。理学療法における検査測定、治療計画、治療の実践までを習得できるよう予習・復習を心がけ、分からないことは積極的に質問できるように努力してください。</p>					
教科書・参考書					
<p>【教科書】①長澤 弘(編):脳卒中・片麻痺理学療法マニュアル. 文光堂, 2007. ②医療情報科学研究所(編):病気が見えるvol.7 脳・神経. メディックメディア, 2011</p> <p>【参考書】①福井國彦・他(編):脳卒中最前線 第4版. 医歯薬, 2009. ②石川朗(総編集)・大畑・他(編):神経障害理学療法学Ⅰ. 中山書店, 2011、③潮見泰藏(編):脳卒中に対する標準的理学療法介入. 文光堂, 2007. ④原 寛美・他(編):脳卒中理学療法の理論と技術. メジカルビュー社, 2013. ⑤水尻強志・他(編):脳卒中リハビリテーション 第3版. 医歯薬, 2013. その他随時紹介する。</p>					
受講時留意点、その他					
<p>実技授業の際は身だしなみを整えるとともに、動きやすい服装で参加すること。 毎回、予習・復習をこまめに行い、自分の学習進度を確認しましょう。 適宜、必要な文献および資料を配布しますが、各自、必要な資料を調べることを推奨します。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	80	前期末試験、後期末試験を実施し、60%以上の得点率を合格とする。前期末試験、後期末試験で60%未満は再試験を実施する。再試験不合格者は本試験と比較高い方の得点を採用する。			
小テスト	10	授業内で学んだ必須最重要を確認するものとして、前期に2回、後期に1回実施する。			
レポート	0	提出遅れや未提出は、減点の対象とする。			
実技試験	10	理学療法評価および治療について、実技試験を実施する。技能として不十分な場合には補習授業を実施する。			
プレゼンテーション	0				
その他	*	授業に対し積極的に参加している学生(意見の発言、予習等の準備など)をは加点の対象となる場合があります。			
(合計)	100				

回数 目付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月5日	オリエンテーション、中枢神経疾患の基礎・脳の機能解剖Ⅰ 授業目標・スケジュールを理解し、中枢神経系の機能解剖の復習をする。 【キーワード】ニューロンとグリア、脳の構造、伝導路、ICF	内田	②p1-59 他	107.108
第2回 4月8日	脳の機能解剖Ⅱ、脳血管障害(脳卒中)の危険因子・疫学・神経症候学 脳動脈(灌流領域)と脳卒中の疫学・神経症候の概要を理解する。 【キーワード】大脳動脈、自動調節、脳血管障害、脳卒中、危険因子、疫学	内田	①p12-22 ②p50-63 参考書②	103.104
第3回 4月22日	脳卒中の分類と回復メカニズム 脳卒中における分類(NINDSⅢ分類)と機能回復メカニズムについて学ぶ。【キーワード】TIA、脳出血、脳梗塞、ペナンプラ、機能解離、シナプスの可塑性、学習	内田	②p64-127 参考書②	103.104
第4回 5月13日	脳卒中の医学的管理(治療ガイドライン) 脳卒中の機能回復メカニズムを理解し、急性期治療を説明できる。【キーワード】治療ガイドライン、血圧管理、脳浮腫、rt-PA療法、急性期・回復期・維持期、他	内田	②p136-137 参考書②	103.104
第5回 5月20日	<確認> 中枢神経系の機能解剖と脳血管障害(脳卒中)の概要 第1～4回目までの確認テストを実施する。 【キーワード】中枢神経の機能解剖、脳血管障害、急性期の医学的管理	内田 片平		103.104
第6回 5月27日	CVDにおける障害像とその把握Ⅰ:全身状態と意識・精神機能障害 全身状態のチェックおよび管理方法、意識障害とその評価方法について理解する。【キーワード】バイタルサイン、病型確認、JCS、GCS、他	片平	①35-58 ②2-137	103.104
第7回 6月3日	CVDにおける障害像の把握Ⅱ:運動機能障害と知覚障害(1) 運動および知覚機能の障害およびその評価方法について理解する。 【キーワード】反射異常と筋緊張異常、共同運動、運動麻痺、痙縮	片平	①p63-91 ②p60-135	103.104
第8回 6月10日	CVDにおける障害像の把握Ⅲ:運動機能障害と知覚障害(2) 運動および知覚機能の障害およびその評価方法について理解する。 【キーワード】感覚障害、視床痛、失調、不随意運動、バランス障害、他	片平	①p91-116 ②p160-199	103.104
第9回 6月14日	CVDにおける障害像の把握Ⅳ:高次脳機能障害(1) 主な高次脳機能障害とその評価方法について理解する。 【キーワード】失語症、失行症、失認症	内田	①p162-178 ②p138-143 p336-349	103.104
第10回 6月17日	CVDにおける障害像の把握Ⅴ:高次脳機能障害(2) 主な高次脳機能障害とその評価方法について理解する。 【キーワード】失認症、Pusher、遂行機能障害、他	内田	①p58-62 p162-178	103.104
第11回 6月24日	CVDにおける障害像の把握Ⅵ:姿勢・動作・歩行の分析 活動制限レベルの障害を把握し、主な評価方法について理解する。 【キーワード】姿勢異常、歩行障害、活動制限、他	片平	①p132-161 p179-187 他	103.104
第12回 6月28日	CVDにおける障害像の把握Ⅶ:活動制限および参加制約の障害 活動制限レベルの障害を把握し、主な評価方法について理解する。 【キーワード】姿勢異常、歩行障害、活動制限、他	片平	①p132-161 p179-187 他	103.104
第13回 7月1日	<確認> CVDの障害像とその評価方法の理解 第6～12回目までの確認テストを実施する。 【キーワード】意識障害、片麻痺、高次脳機能障害、参加制約、評価方法	内田 片平		103.104
第14回 7月8日	片麻痺運動機能評価①:Br.stage test (BRS)、上田らの12段階グレードテスト、SIAS等の評価方法について理解する。 【キーワード】共同運動、BRS、痙縮、MAS、他	片平	①p70-97 他	講堂
第15回 7月15日	片麻痺運動機能評価②:BRSとSIASの実技 片麻痺運動機能評価と神経学的評価方法を実践する。 【キーワード】スクリーニング、実施手順、教示、実施、判定基準、他	内田 片平	①p70-97 他	治療室
定期試験	前期末試験			

回数 目付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第16回 8月26日	実技と脳卒中患者に対する理学療法評価の復習 ブルンストロームステージテスト、SIAS、上田の12段階グレードテスト、 他	片平 内田	①p.92-97	機能訓練室
第17回 9月2日	理学療法評価の実技確認(実技確認テスト) BRS、SIASの実践 姿勢観察、筋緊張異常、腱反射、病的反射の評価の実践	内田 片平	①p.92-97	機能訓練室 / 治療室
第18回 9月9日	脳卒中に対する急性期理学療法① 急性期の医学的管理と理学療法、早期離床、離床基準・中止基準、リスク管理、 ポジショニング、廃用予防(関節可動域・他)	片平 内田	① p.214-217 p.226-232	103
第19回 9月16日	脳卒中に対する急性期理学療法② 早期理学療法としての基本動作の確立、機能障害の改善と廃用症候群の予防 寝返り、起き上がり、座位保持、座位バランス	片平 内田	①p.233-249	機能訓練室
第20回 9月23日	脳卒中に対する回復期の理学療法① 回復期における理学療法介入の進め方、課題指向型トレーニング(学習理論)、 機能障害回復に対する理学療法介入、座位バランス、移乗動作	内田 片平	①p.265-276	103
第21回 10月7日	脳卒中に対する回復期の理学療法② 立ち上がり、立位、立位バランス	内田 片平	①p.277-292	機能訓練室
第22回 10月14日	脳卒中に対する回復期の理学療法③ 歩行能力の獲得に向けた理学療法介入(装具療法含む)	内田 片平	①p.293-319	OT実習室2・ 装具加工室
第23回 10月21日	脳卒中に対する回復期の理学療法④ 歩行能力向上に向けた理学療法介入:運動療法を中心に	内田 片平	①p.293-319	103
第24回 10月28日	脳卒中に対する維持期(生活期)の理学療法 身体機能の維持・生活環境の整備・社会的参加の促進・介護負担の軽減 自立生活の支援について理解する。	片平 内田	①p.356-393	103
第25回 11月4日	脳卒中の合併症に対する理学療法 亜脱臼、視床痛、嚥下障害、排尿障害などの脳卒中に関係の深い『合併症』 について理解を深め、その対策を考える。	片平 内田	①p.346-353	103
第26回 11月11日	高次脳機能障害の理解と理学療法 半側空間無視、Pusher現象に対する理学療法を理解する。	内田 片平	①p.162-172	機能訓練室
第27回 11月18日	まとめと確認(小テスト) 16~26回目までの授業内容の確認テストを実施する。 時間があれば症例検討・症例報告書の作成を実践する。	片平 内田		103
第28回 11月25日	症例検討① 模擬症例模擬患者(SP: Simulated Patient)を活用し、理学療法評価の解釈から治療プログラム立案までを学ぶ。(グループワークによる演習:症例報告の形式でレポート提出)	片平 内田	配布資料	103
第29回 12月2日	症例検討② 症例発表:理学療法の治療介入:アプローチ方法、選択、根拠を中心に (作成したレポートの発表・具体的治療介入の内容を示す)	片平 内田	配布資料	103
第30回 12月9日	まとめ クリニカルリーズニング、治療介入方法の具体的提示 模倣と助言により臨床実践を学ぶ。(キーワードの提示)	内田 片平	配布資料	機能訓練室
定期試験	前期に学んだ内容は後期の理学療法実践に関わるため、一部を含めて出題する。(具体的には試験前にその範囲を提示する。)			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	神経・筋疾患理学療法学	4*1	60*1	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療学科 2年	三田久載、市村真樹	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、運動学、基礎理学療法学、機能診断学、義肢装具学、神経内科学、神経機能評価学、神経機能評価学実習、臨床理学療法学、臨床実習Ⅱ・Ⅲ			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	脊髄損傷の基本的知識、障害、理学療法の方法を理解する。				
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 脊髄損傷の疾患特性を説明することが出来る。 2. 脊髄損傷の障害特性を説明することが出来る。 3. 脊髄損傷の合併症を説明することが出来る。 4. 脊髄損傷の起居動作を模倣することが出来る。 5. 脊髄損傷に対応したトランスファーを実施することが出来る 6. 脊髄損傷の社会復帰に関わる理学療法士の役割を理解することが出来る 				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>脊髄損傷の障害には様々な合併症が存在します。理学療法士は、合併症の発生機序を理解し社会復帰を目的に機能回復と能力の再獲得を目指します。本授業では、脊髄損傷の理学療法に必要な基礎知識の定着と、臨床現場で行なわれている実技の体験を目的とします。また、実技場面では、脊髄損傷の患者さんだけでなく、基本的な身体の触り方や訓練指示の仕方等も実演していきます。</p> <p>授業が難しくてついていけない、問題演習の結果が芳しくない・・・悩んでいる人は相談して下さい。少人数での補習を行います。担当教員まで申し出て下さい。</p>					
教科書・参考書					
前期教科書: 脊髄損傷マニュアルリハビリテーション・マネージメント 第2版(医学書院)					
受講時留意点、その他					
<p>体調管理をしっかり行い、休まずに受講して下さい。受講時は礼儀正しく、清潔な身だしなみ(頭髪、服装など)を心がけましょう。</p> <p>内容、時間割を変更することがあります。その際は、掲示板、デスクネッツなどでお知らせします。注意深く見ておくようにして下さい。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	<p>前・後期末試験を通算し、年間を通しての評価とします。</p> <p>前期末試験(脊髄損傷)で6割未満の者は再試験を実施する。</p> <p>後期末試験は、渡邊担当分から70%、和泉担当分から30%を予定しています。</p> <p>成績は前期末試験と後期末試験の結果を合算し、それぞれ60点以上を合格の目安とする。最終評定は学則第4章、成績の評価に準じます。</p>			
小テスト	*	小テストは1回を予定しているが、基本的には成績評価に含めない。ただし、故意に白紙提出する、カンニングするなどの行為は減点の対象とする場合がある。			
レポート	0				
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他	*	<p>科目に対する興味、関心、学習に対する積極性が良好な場合、加点の対象とすることがあります。</p> <p>授業に対する迷惑行為や協同学習不参加、欠席は減点の対象とすることがあります。</p>			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月4日	コースオリエンテーション(前半) 脊髄損傷の疾患特性・障害特性(後半) 前半は、この講義の目的、目標、スケジュールなどを確認、理解する。後半は、脊髄損傷がどのような疾患でどのような障害が特徴なのかを理解する。	三田久載		107・108
第2回 4月11日	脊髄損傷の理学療法① 脊髄損傷のADL 脊髄損傷のADLの特徴を理解し、経験する。 【キーワード】運動障害、感覚障害、自律神経障害	市村真樹		機能訓練室
第3回 4月18日	脊髄損傷の理学療法② 急性期、亜急性期の治療・呼吸器合併症 急性期、亜急性期の治療を理解する。呼吸管理を必要とする病態を理解する。 【キーワード】脊髄ショック、合併症	市村真樹	p1～18	107・108
第4回 4月25日	脊髄損傷の理学療法③ 褥瘡と排尿排便障害 褥瘡の原因や排尿排便障害を考える。 【キーワード】褥瘡・徐圧、尿路管理、排便訓練	市村真樹	p20～51	107・108
第5回 5月2日	脊髄損傷の理学療法④ 自律神経機能障害 脊髄損傷の自律神経機構を理解し、自立神経障害を考える。 【キーワード】起立性低血圧、体温調節、自律神経過反射	市村真樹	p53～54	107・108
第6回 5月9日	脊髄損傷の理学療法⑤ 痙性・拘縮・異所性骨化 痙性、拘縮、異所性骨化の病態生理を理解する。 【キーワード】痙性、拘縮、異所性骨化	三田久載	p49～56	107・108
第7回 5月16日	脊髄損傷の理学療法⑥ 障害の評価と予後予測 機能障害の評価、能力障害の評価と予後予測を考える。 【キーワード】ASIA、フランケルの分類、ザンコリーの分類	三田久載	p69～79	107・108
第8回 5月23日	脊髄損傷の理学療法⑦ 心理的対応(前半) 前半のまとめ 脊髄損傷患者の精神状態の変化を考える。後半は、第1回目～第7回目までの内容で小テストを実施する。	市村真樹 三田久載	p96～100	107・108
第9回 5月30日	動作訓練① 理学療法プログラム 2人組で理学療法士と患者になり、理学療法プログラムを模倣する。 【キーワード】触診、Muscle stretching、ROM-ex	市村真樹 三田久載		機能訓練室
第10回 6月5日	動作訓練② C5、C6、C7の坐位・寝返り・起き上がり・プッシュアップ C5、C6、C7の坐位・寝返り・起き上がり・プッシュアップを体験する。 【キーワード】重心、回転軸、モーメント、支持基底、鼓舞	市村真樹 三田久載		機能訓練室
第11回 6月13日	動作訓練③ C5、C6、C7のトランスファー C5、C6、C7の1人介助トランスファー、2人介助トランスファーを体験する。 【キーワード】前方トランスファー、側方トランスファー	市村真樹 三田久載		機能訓練室
第12回 6月20日	動作訓練④ 車椅子駆動・キャスター上げ・段差越え等 車椅子操作と介助法を体験する。 【キーワード】キャスター上げ	市村真樹 三田久載		機能訓練室
第13回 6月27日	動作訓練⑤ 車椅子・装具・自助具 レベル別の車椅子、歩行補助具、歩行用装具、自助具等を理解する。 【キーワード】プライムウォーク、RGO、HALなど。	市村真樹 三田久載	p165～183	機能訓練室
第14回 7月4日	社会復帰 社会復帰への援助・社会資源 社会復帰の際の理学療法士の役割や社会資源の内容を知る。 【キーワード】復職、復学、社会資源	市村真樹	p187～209	107・108
第15回 7月11日	まとめ 問題演習と解説 これまでのまとめと演習問題の解答解説をおこなう。	市村真樹 三田久載		107・108
定期試験	前期末試験			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	神経・筋疾患理学療法学	4*1	60*1	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科 2年	渡邊祥子・和泉謙二(外部講師)	神経内科学・臨床理学療法学・臨床実習Ⅱ,Ⅲ			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	パーキンソン病など代表的な疾患の理学療法が行えるようになるために、それらの病態を知ること、治療法について知る。				
行動目標 (SBO)	① 各疾患における特徴的な症状が言える。 ② 各疾患で必要な評価項目が挙げられる。 ③ 各疾患の病態や病期に合わせた理学療法が考えられるようになる。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>後期の神経・筋疾患理学療法は、主に神経難病といわれる疾患を取り扱います。その中で良く経験するパーキンソン病や類似疾患については共立蒲原総合病院の和泉謙二先生に講義をお願いしています。渡邊が担当する講義では、PBL(Problem-based Learning)という形式で一部行います。PBL授業とは、学生の主体的な学習活動が中心の授業で、教員の役割は何かを教えることではなく、学生の学習を支援することです。そのため自ら学ぶ姿勢や追求心が求められます。授業外で自己学習する必要性もありますが、随時個別指導は行います。なお渡邊は月曜日不在ですので、それ以外の曜日に職員室を訪ねてもらるかメールにてご質問下さい。</p>					
教科書・参考書					
教科書:指定しない 参考書:奈良勲監修 『標準理学療法学・作業療法学 神経内科学』(医学書院) 奈良勲監修 『標準理学療法学 運動療法 各論』(医学書院)					
受講時留意点、その他					
<p>積極的な授業参加を求めます。臨床実習に向け、自ら考えていく力を伸ばすよう努力願います。 プリントは随時配布します。 PBLの発表資料は発表の前日17時が期限です。提出は代表者が行ってくれば良いですが、提出し忘れないように注意下さい。 授業は基本的にクラスごとに行いますが、和泉先生の授業は1・2組合同で行いますので注意して下さい。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	前・後期末試験を通算し、年間を通しての評価とします。後期末試験は、渡邊担当分から70%、和泉担当分から30%を予定しています。最終評定は学則第4章、成績の評価に準じます。			
小テスト	0				
レポート	0				
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他	0				
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第16回 8月24日	神経・筋疾患総論 これから取り上げる疾患の分類、ニューロパチーとミオパチーの違いについて学ぶ。 【キーワード】神経原性筋萎縮、筋原性筋萎縮、末梢神経損	渡邊	配布資料	103
第17回 9月2日	頭部外傷の理学療法 頭部外傷にて起こる障害と理学療法について学ぶ 【キーワード】意識レベル、高次脳機能、脳画像所見	渡邊	配布資料	103
第18回 9月9日	多発性硬化症の理学療法 疾患の特徴と理学療法評価、理学療法について学ぶ。 【キーワード】特徴的な疼痛、Uhthoff徴候、寛解憎悪	渡邊	配布資料	103
第19回 9月16日	パーキンソン病の理学療法(1) 症状と疫学について学び、治療薬についても学習する。 【キーワード】黒質緻密部、Hoehn&Yahrの重症度分類、L-Dopa製剤	和泉	配布資料	103
第20回 9月16日	パーキンソン病の理学療法(2) 症状や重症度分類に合わせた理学療法について学ぶ。 【キーワード】バランス障害、歩行障害、手がかり	和泉	配布資料	103
第21回 9月23日	脊髄小脳変性症の理学療法(1) 概念と疫学、分類と症状について学ぶ。 【キーワード】多系統萎縮症、協調性障害	和泉	配布資料	103
第22回 9月23日	脊髄小脳変性症の理学療法(2) 病期に合わせた理学療法について学ぶ。 【キーワード】PNF、重り負荷、弾力包帯、フレンケル体操	和泉	配布資料	103
第23回 10月14日	多発性神経炎・ギラン・バレー症候群の理学療法(1) 事例問題を提示し、グループで解決のために何を学習すべきか考え、学習の計画を立てる。その後各自自己学習に入る。	渡邊	—	103
第24回 10月14日	多発性神経炎・ギラン・バレー症候群の理学療法(2) 自己学習の内容を共有しあい、更に必要な学習すべきことを確認。まとめを行う。	渡邊	—	103
第25回 10月21日	多発性神経炎・ギラン・バレー症候群の理学療法(3) グループごとに発表を行い、クラスで知識を共有しあう。また更に必要な学習について考える。	渡邊	配布資料	103
第26回 10月28日	筋萎縮性側索硬化症の理学療法 疾患の特徴と理学療法評価、病期に合わせた理学療法について学ぶ。 【キーワード】陰性四徴候、球麻痺、重症度分類	渡邊	配布資料	103
第27回 11月4日	進行性筋ジストロフィーの理学療法(1) 症状およびstageについて学び、stageごとの理学療法について学ぶ。 【キーワード】遺伝形式、仮性肥大、動揺性歩行、登攀性起立	渡邊	配布資料	103
第28回 11月11日	進行性筋ジストロフィーの理学療法(2) 症状およびstageについて学び、stageごとの理学療法について学ぶ。 【キーワード】遺伝形式、仮性肥大、動揺性歩行、登攀性起立	渡邊	配布資料	103
第29回 11月8日	多発性筋炎・重症筋無力症の理学療法 疾患の特徴と理学療法評価、理学療法の目的と病期に合わせた理学療法について学ぶ。 【キーワード】ヘリオロープ疹、ゴットロン徴候、レイノー現象、waning現象	渡邊	配布資料	103
第30回 11月25日	神経・筋疾患に対する理学療法(まとめ) 第16～29回までの復習を行う。	渡邊	配布資料	103
定期試験	後期末試験 第16～29回の範囲でペーパーテストを行う。	渡邊		

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	骨・関節疾患理学療法学	4	60	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科 2年	大沼賢洋・植田英則・ 赤岩龍士・佐藤梢	解剖学Ⅰ、解剖学実習、運動学、生理学、整形外科Ⅰ・Ⅱ、 基礎理学療法学実習			
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	運動器系疾患における理学療法の進め方、考え方を理解する。				
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 変形性関節症の病理、臨床症状、治療方法が分かる。(前期) 2. 骨折の病態、治癒過程、治療法が分かる。(前期) 3. 末梢神経損傷の病態、治療法が分かる。(前期) 4. 熱傷の病態、治療法が分かる。(前期) 5. 運動器疾患における基本的な理学療法評価が分かる。(前・後期) 6. 運動器疾患における基本的な運動療法が分かる。(前・後期) 7. 各疾患に応じて必要な評価、運動療法を選択することができる。(前・後期) 8. 関節構造を踏まえた理学療法を理解する。(後期) 				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>本講義で学ぶ疾患は臨床場面で数多く関わるものです。解剖学・運動学的知識をもとにその病態を理解し、理学療法を組み立てていけるよう講義を展開していきます。解剖学、運動学、整形外科等関連項目で学んだ知識を結びつけながら理解していくことがポイントです。そこを意識して受講できると良いでしょう。学習が十分に進まないようでしたら相談をしてください。個別の指導を実施します。</p>					
教科書・参考書					
教科書: 運動器障害理学療法学テキスト(細田多穂 監修、南江堂) 参考書: 標準整形外科 第12版(医学書院) など					
受講時留意点、その他					
<p>本講義は、骨・関節疾患理学療法学実習と関連付けて行います。 解剖学、整形外科などで学んだ内容(教科書、ノート、資料)を適宜参考にしてください。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	前期末試験、後期末試験を行ない、合計120点を合格の目安とする。 前期末試験は第1回～第15回の範囲で行なう。 後期末試験は第16回～第30回の範囲で行なう。 本試験で不合格の場合再試験を実施し、再試験合格者の成績は、試験規程に準じて60点として扱う。			
小テスト	0				
レポート	0				
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他	0				
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月7日	<u>変形性関節症総論</u> 変形性関節症の基礎(病態、臨床症状)を理解する。	大沼	P12～20	103・104
第2回 4月13日	<u>変形性股関節症①</u> 変形性股関節症の基礎(病態、臨床症状)とそれに対する理学療法の基本事項を理解する。	大沼	P55～66	103・104
第3回 4月14日	<u>変形性股関節症②</u> 変形性股関節症に対する代表的な手術法を理解し、術後理学療法について説明できるようにする。	大沼	P67～76	103・104
第4回 4月27日	<u>変形性膝関節症①</u> 変形性膝関節症の基礎(病態、臨床症状)とそれに対する理学療法の基本事項を理解する。	大沼	P32～42	103・104
第5回 5月12日	<u>変形性膝関節症②</u> 変形性膝関節症に対する代表的な手術法、禁忌事項を理解し、術後理学療法について説明できる。	大沼	P43～54	103・104
第6回 5月18日	<u>骨折の基礎</u> 骨折要因と分類、全身症状と局所症状を理解する。	植田・佐藤	P131～142	103・104
第7回 5月26日	<u>大腿骨近位部骨折①</u> 大腿骨近位部骨折の特徴を理解する。	植田・佐藤	P143～153	103・104
第8回 6月1日	<u>大腿骨近位部骨折②</u> 術前・術後リスクを理解し、評価内容を理解する。	植田・佐藤	P154～163	103・104
第9回 6月9日	<u>大腿骨近位部骨折③</u> 整形外科的処置に応じた理学療法を理解する。	植田・佐藤	P154～163	103・104
第10回 6月16日	<u>大腿骨近位部骨折④</u> まとめと復習	植田・佐藤		103・104
第11回 6月23日	<u>変形性脊椎症、側彎症</u> 変形性脊椎症を中心とした疾患の病態を知り、理学療法の基礎を説明できるようにする。	大沼	P21～31	103・104
第12回 6月30日	<u>上肢の骨折</u> 上肢骨折の特徴を理解し、骨折部の治癒過程に応じた理学療法プログラムを理解する。	大沼	P174～183	103・104
第13回 7月7日	<u>下肢の骨折</u> 下肢骨折の特徴を理解し、骨折部の治癒過程に応じた理学療法プログラムを理解する。	大沼	P164～173	103・104
第14回 7月14日	<u>末梢神経損傷に対する理学療法</u> 末梢神経損傷の原因、特徴、評価を理解することができる。	大沼	配布資料	103・104
第15回 7月21日	<u>熱傷に対する理学療法</u> 熱傷の評価、良肢位、治療を理解することができる。	大沼	配布資料	103・104
定期試験	前期末試験			

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第16回 8月25日	<u>コースオリエンテーション、肩関節周辺疾患①</u> 肩関節周辺疾患の評価について理解する	大沼	P209-218	103・104
第17回 9月1日	<u>肩関節周辺疾患②</u> 肩関節の解剖学・運動学を確認する	大沼	P209-218	103・104
第18回 9月5日	<u>肩関節周辺疾患③</u> 肩関節周辺疾患の病態と治療について理解する	大沼	P209-218	103・104
第19回 9月8日	<u>膝関節周辺疾患①</u> 十字靭帯損傷の病態と治療を理解する	赤岩	P89-98	103・104
第20回 9月15日	<u>膝関節周辺疾患②</u> 半月板損傷、側副靭帯損傷の病態と治療を理解する	赤岩	P78-88 P99-108	103・104
第21回 10月6日	<u>足関節周辺疾患①</u> 捻挫・靭帯損傷の病態と治療を理解する	赤岩	P99-108	103・104
第22回 10月13日	<u>足関節周辺疾患②</u> 捻挫・靭帯損傷の病態と治療を理解する	赤岩	P99-108	103・104
第23回 10月20日	<u>画像診断</u> 理学療法の対象となる代表的な骨関節疾患の画像診断の診かたを理解する	大沼	配布資料	103・104
第24回 10月27日	<u>スポーツ疾患</u> 野球肘、上腕骨外側上顆炎、オスグッドシュラッター病、ジャンパー膝などの病態と治療を理解する	大沼	P198-208	103・104
第25回 11月10日	<u>腰椎周辺の機能と構造</u> 体幹・骨盤の解剖学を確認する	植田	P250-270	103・104
第26回 11月17日	<u>腰椎周辺の機能と構造</u> 体幹・骨盤の解剖学を確認する	植田	P250-270	103・104
第27回 11月25日	<u>関節リウマチ①</u> 自己免疫疾患・膠原病・関節リウマチの基礎を理解する	植田・佐藤	P271-282	103・104
第28回 12月1日	<u>関節リウマチ②</u> 臨床症状(関節症状・関節外症状)・臨床検査・診断基準を理解する	植田・佐藤	P271-282	103・104
第29回 12月8日	<u>関節リウマチ③</u> 評価・治療① 評価の工夫、術後のリハビリテーションを理解する	植田・佐藤	P283-292	103・104
第30回 12月15日	<u>関節リウマチ④</u> 評価・治療② 保存のリハビリテーション(ADL)を理解する	植田・佐藤	P283-292	103・104
定期試験				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	骨・関節疾患理学療法学実習	2	60	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科 2年	大沼賢洋・植田英則・赤岩龍士・佐藤梢	解剖学Ⅰ、解剖学実習、運動学、生理学、整形外科Ⅰ・Ⅱ、基礎理学療法学実習			
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	運動器系疾患に対する基本的な評価、運動療法を実践できる。				
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾患に応じた関節可動域運動、筋力増強運動ができる。(前期) 2. 杖等の調節、荷重計画の遂行を含め、歩行指導ができる。(前期) 3. リスクに配慮しながらの動作指導ができる。(前期) 4. 症例に応じた評価、運動療法を選択・実践できる。(前期) 6. 軟部組織損傷の病態を学ぶ。(後期) 7. 軟部組織損傷に対する治療法の理論を知る。(後期) 8. 軟部組織損傷に対する治療技術を経験する。(後期) 				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>この授業で学ぶ疾患は臨床場面で数多く関わるもので、講義で学んだ内容をもとに対象者(症例)を想定して実施していきます。将来担当するであろう患者様に対して、評価・治療・ADL指導を実施する際のヒントになるような内容で展開をしていきます。また、実技は、実際の臨床に直結する内容となりますので、繰り返しの練習が必要となります。実技が上達しない、思うように進まないなどあるようでしたら相談をしてください。個別の指導を実施します。</p>					
教科書・参考書					
教科書:運動器障害理学療法学テキスト(細田多穂 監修、南江堂) 参考書:標準整形外科学 第12版(医学書院) など					
受講時留意点、その他					
<p>この授業は、骨・関節疾患理学療法学と関連付けて行います。適宜資料を参考にしてください。 Tシャツ、ハーフパンツ等動きやすい服装で出席して下さい(服装、身だしなみは清潔感のあるものとします)。学内の実習ではありますが、緊張感を持ち、礼儀正しく臨みましょう。特に実技練習の際は学生同士といえども許可を得る、礼を述べることを絶対に忘れないでください。授業前後の手洗いも徹底して下さい。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	0				
小テスト	0				
レポート	0				
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他	行動観察 100	前期:大腿骨頸部骨折と変形性股関節症の2症例を提示し、課題を実施。 第15回に実施する課題は、2週間前に提示。 後期:後期授業内容をもとに上肢・体幹・下肢の治療手技を実施。 第30回に実施する課題は、2週間前に提示。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月7日	<u>変形性股関節症(急性期)</u> 変形性股関節症術後のリスクを理解し、床上動作を実施する。	大沼	P143～163	機能訓練室
第2回 4月14日	<u>変形性股関節症(回復期)</u> 変形性股関節症の機能的評価の実施、その結果を踏まえて起居動作指導ができるようにする。	大沼	P143～163	機能訓練室
第3回 4月21日	<u>変形性股関節症(回復期)</u> 変形性股関節症の機能的評価の実施、その結果を踏まえて起居動作指導ができるようにする。	大沼	P143～163	機能訓練室
第4回 4月28日	<u>変形性股関節症(回復期)</u> 変形性股関節症の機能的評価の実施、その結果を踏まえて日常生活動作指導ができるようにする。	大沼	P143～163	機能訓練室
第5回 5月12日	<u>変形性股関節症(社会復帰準備期)</u> 変形性股関節症の杖調整、免荷歩行の指導・練習をできるようにする。	大沼	P143～163	機能訓練室
第6回 5月19日	<u>大腿骨近位部骨折(評価)</u> 術前・術後のリスクを理解し、整形外科的処置に応じた評価を挙げ、進め方を理解する。	植田・佐藤	P12～20 P32～41	機能訓練室
第7回 5月26日	<u>大腿骨近位部骨折(関節可動域運動)</u> 術後のリスクを理解し、測定した結果から肢位や持ち方、動かし方を工夫しながら進めることができる。	植田・佐藤	P12～20 P32～53	機能訓練室
第8回 6月2日	<u>大腿骨近位部骨折(筋力増強運動)</u> 術後のリスクを理解し、測定した結果から適切な筋力練習を選択し、実施することができる。	植田・佐藤	P55～76	機能訓練室
第9回 6月9日	<u>大腿骨近位部骨折(歩行練習・ADL)</u> 術後のリスクを理解し、荷重時期、筋力に合わせて歩行補助具を選択し、実施することができる。	植田・佐藤	P55～76	機能訓練室
第10回 6月16日	<u>大腿骨近位部骨折(復習)</u> 理学療法の一連の流れを確認し、実施することができる。	植田・佐藤	配布資料	機能訓練室
第11回 6月23日	<u>大腿骨近位部骨折(復習)</u> 理学療法の一連の流れを確認し、実施することができる。	植田・佐藤	配布資料	機能訓練室
第12回 6月30日	<u>骨折の理学療法①</u> 杖調整、免荷歩行を、器機を利用して指導・練習できるようにする。	大沼	配布資料	機能訓練室
第13回 7月7日	<u>骨折の理学療法②</u> 状態に合わせて、器機を利用した起居動作を指導できるようにする。	大沼	配布資料	機能訓練室
第14回 7月14日	<u>末梢神経損傷、熱傷の理学療法</u> 病期に応じた理学療法を実施する。	大沼	配布資料	機能訓練室
第15回 7月21日	<u>実技確認</u> 術後の軟部組織の修復過程を理解し、それに対する理学療法を知る。	植田・ 大沼・佐藤	配布資料	機能訓練室
定期試験				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第16回 8月25日	コースオリエンテーション、 <u>肩関節周辺疾患①</u> 肩関節周辺疾患の評価方法の実習	大沼	配布資料	治療室
第17回 9月1日	<u>肩関節周辺疾患②</u> 肩関節周辺疾患の治療の実習	大沼	配布資料	治療室
第18回 9月8日	<u>肩関節周辺疾患③</u> 肩関節周辺疾患の治療の実習	大沼	配布資料	治療室
第19回 9月15日	<u>下肢に対する治療① stretching理論</u> stretchingの理論と実際。股関節。	赤岩	配布資料	治療室
第20回 9月29日	<u>下肢に対する治療② IDstretching実習</u> IDstretchingの実践。股関節・膝関節。	赤岩	配布資料	治療室
第21回 10月6日	<u>下肢に対する治療③ IDstretching実習</u> IDstretchingの実践。膝関節・足関節。	赤岩	配布資料	治療室
第22回 10月13日	<u>下肢に対する治療④ 関節mobilization</u> 関節mobilizationの理論と実際。股関節。	赤岩	配布資料	治療室
第23回 10月20日	<u>下肢に対する治療⑤ 関節mobilization</u> 関節mobilizationの実践。膝関節。	赤岩	配布資料	治療室
第24回 10月27日	<u>下肢に対する治療⑥ 関節mobilization</u> 関節mobilizationの実践。足関節。	赤岩	配布資料	治療室
第25回 11月10日	<u>腰痛に対する評価</u> 腰痛原因を特定する評価を実施することができる。	植田	配布資料	治療室
第26回 11月18日	<u>腰痛に対する治療① 軟部組織mobilization</u> 筋性の原因に対して治療を実施することができる。	植田	配布資料	治療室
第27回 11月24日	<u>腰痛に対する治療② 関節mobilization</u> 関節性の原因に対して治療を実施することができる。	植田	配布資料	治療室
第28回 12月1日	<u>腰痛に対する治療③ stabilization、Active training</u> 腰部周囲の筋に対してアプローチすることができる。	植田	配布資料	治療室
第29回 12月8日	<u>腰痛に対する治療④ stabilization、Active training</u> 自己コントロールするための運動を実施することができる。	植田	配布資料	治療室
第30回 12月15日	<u>体幹・下肢に対する治療手技の確認・まとめ</u> ここまで学んだ治療手技を正しく実施することができる。	大沼・ 植田・赤岩	配布資料	治療室・ 機能訓練 室
定期試験	—			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	小児理学療法学	2	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年生	赤岩 龍士	小児科学・運動学・人間発達学・整形外科学・神経内科学			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	小児の成長と発達を理解し、脳性まひなどの発達障害の特性を知る。				
行動目標 (SBO)	1 反射反応の名称・統合部位・出現消失時期・誘発方法・異常性を覚える 2 発達検査方法の名称、目的、検査内容を覚える 3 脳性まひの定義を覚え、痙直型・アトニー型・その他の病態及び特徴について説明できる 4 脳性まひの治療方法を、目的を踏まえ説明できる 5 知的発達障害、ダウン症、自閉症、二分脊椎、ヘルテス病、先天性股関節脱臼などの特徴や治療目的を説明できる				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>こどもの発達過程を知り、発達過程で生じる様々な変化に興味を持っていただけると良いでしょう。 また、発達障害は成人の中脳神経疾患とも密接な関わりがあるので、他の教科と関連していることも念頭に置いてください。 ①正常運動発達過程 ②脳性まひの種類とタイプ分類 ③脳性まひをはじめとする各発達障害のい特徴 ④小児整形外科疾患の特徴 以上4点が大項目となります。 運動発達過程は暗記しなければならないことが多く、発達障害に関しては臨床像をイメージできるようにすることが重要となります。 VTRなどの教材を多く用いますので、メモをすることや様子や状況を頭に思い浮かべながら受講してください。</p>					
教科書・参考書					
講義資料(初回講義で配布) 参考図書: 陣内一保他編「こどものリハビリテーション医学」医学書院 千野直一他編「リハビリテーションMOOK 小児のリハビリテーション」金原出版 木本孝子他「写真で見る 乳児の運動発達」協同医書・五味重春「脳性麻痺 第2版」医歯薬出版 など					
受講時留意点、その他					
講義形式での授業ですが、特異的な姿勢や動作などは身体を動かしながら行う予定です。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100%	100点満点の筆記試験。60点合格基準。 試験範囲 正常運動発達3割、脳性まひ5割、ダウン症など1割、小児整形疾患1割程度の出題			
小テスト	0%				
レポート	0%				
実技試験	0%				
プレゼンテーション	0%				
その他	※	科目に対する興味、関心、学習に対する積極性が良好な場合、加点の対象とする場合がある。 授業に対する迷惑行為、清潔感にける身だしなみなどは減点の対象とする場合がある。 正当でない理由での欠席は減点の対象とする場合がある。			
(合計)	100%				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月8日	胎生期の成長と発達 在胎期間中の身体器官や運動機能の発達について学ぶ 【キーワード】胎生期・40週・低体重児	赤岩	第1章	101・2 乳児モデル
第2回 4月22日	運動発達の概要 正常運動発達過程の順序や法則について学ぶ 【キーワード】運動発達・原則・方向性	赤岩	第2章	101・2 乳児モデル
第3回 5月11日	正常運動発達 正常運動発達過程における段階的变化について学ぶ 【キーワード】キーマンス・粗大運動	赤岩	第3章	<u>107・8</u>
第4回 5月13日	反射・反応(1) 発達過程で出現する様々な反射・反応について学ぶ 【キーワード】原始反射・姿勢反射・階層理論	赤岩	第4章	101・2
第5回 5月20日	反射・反応(2) 発達過程で出現する様々な反射・反応について学ぶ 【キーワード】各反射・出現と消失・統合部位	赤岩	第5章	101・2
第6回 5月27日	発達診断・発達評価 発達の評価方法の種類とそれぞれの概要や特徴について学ぶ 【キーワード】DDST・GMFCS・ADL評価	赤岩	第6章	101・2
第7回 6月3日	発達障害と異常姿勢 運動発達障害で特徴的な異常姿勢について学ぶ 【キーワード】異常姿勢・はさみ足・ATNR	赤岩	第7章	<u>107・8</u>
第8回 6月10日	脳性まひの病態と疫学 脳性まひの定義や特徴、疫学について学ぶ 【キーワード】CP・定義・特徴	赤岩	第8章	<u>107・8</u>
第9回 6月17日	脳性まひのタイプ 脳性まひの病型とそれぞれの特徴について学ぶ 【キーワード】痙直型・アテトーゼ型・麻痺の分布	赤岩	第9章	<u>107・8</u>
第10回 6月24日	脳性まひと理学療法 脳性まひ児の運動療法や介入方法について学ぶ 【キーワード】運動療法・ストレッチング・ADL指導	赤岩	第10章	101・2
第11回 6月29日	脳性まひと理学療法 脳性まひ児の運動療法や介入方法について学ぶ 【キーワード】運動療法・ストレッチング・ADL指導助	赤岩	第10章	<u>107・8</u>
第12回 6月30日	その他の発達障害 発達障害の概要を知り、それぞれの特徴について学ぶ 【キーワード】ダウン症・広汎性発達障害・知的発達障害	赤岩	第11章 第12章	<u>107・8</u>
第13回 7月1日	療育と重症心身障害について 病院以外での発達障害をもつお子さんへの関わりについて学ぶ 【キーワード】療育・重症心身障害・特別支援学校	赤岩	第12章 第13章	<u>107・8</u>
第14回 7月8日	整形外科領域: 整形外科分野の疾患や病態、理学療法について学ぶ。 【キーワード】二分脊椎・ベルテス病・理学療法	赤岩	第14章	<u>107・8</u>
第15回 7月15日	まとめ 運動発達過程および評価、脳性まひ、発達障害、整形疾患について復習する。	赤岩	第15章	<u>107・8</u>
定期試験 7月26日 予定	前期期 末試験			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	内部疾患理学療法学	2	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年	宮下 正好／菊池 和也(校長) 赤岩 龍士／森 雄司(外部講師)	解剖学Ⅱ、生理学、内科学Ⅰ、内科学Ⅱ、基礎PT学 機能診断学、内部疾患理学療法学実習 など			
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	呼吸・循環・代謝疾患に対する理学療法を理解する。				
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸、循環、代謝疾患を理解するための生理学的知識を習得する。 2. 内部障害系対象疾患の病態生理がわかる。 3. 呼吸、循環、代謝疾患に対する基本的な介入方法を知る。 				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>この授業では内部障害系の理学療法を学びます。内部障害系は、馴染みが少ない分野で学びにくいかもしれませんが、しかし、生理学の復習をして病態との結びつきがわかるようになると、それ程難しくありません。</p> <p>内部障害系の疾患を臨床実習で担当することはないと思いますが、呼吸、循環、代謝の知識はリスク管理を行う上で必要なものです。その意味で、骨・関節疾患、中枢神経疾患に関わる際にこの授業で学んだことを活かすことができるでしょう。ぜひ、興味をもって受講して下さい。</p> <p>授業の復習、学習の助言など受けたい場合は申し出て下さい。随時対応します。</p>					
教科書・参考書					
教科書： 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸(中山書店) *第1回～第5回 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝(中山書店) *第6回～第15回					
受講時留意点、その他					
第8回、第9回、第10回は外部講師(静岡医療センター;森 雄司 先生)による講義を予定しています。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	後期末試験を行い成績評価を行う。評価割合は原則、100%とします。			
小テスト					
レポート					
実技試験					
プレゼンテーション					
その他	*	授業に対する興味・関心が良好な場合、加点の対象とすることがあります。 好ましくない身だしなみ(服装、頭髪)、無礼な態度などは減点の対象とすることがあります。 正当でない理由の欠席は減点の対象とします。 禁止されている行為(教室での飲食、携帯電話使用など)については減点の対象とします。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 8/24 (水)	呼吸器系の解剖学・生理学・運動学 呼吸器系の主な構造と呼吸のメカニズムを学ぶ。 【キーワード】気管支・肺、肺胞・肺気量・呼吸調節・呼吸運動	宮下	(呼吸) Lecture2,3	103
第2回 9/1 (木)	呼吸不全の病態と呼吸器疾患 呼吸器不全の定義と、呼吸理学療法の対象疾患を学ぶ。 【キーワード】呼吸不全・慢性閉塞性肺疾患・間質性肺疾患	宮下	(呼吸) Lecture 4	107
第3回 9/6 (火)	呼吸理学療法のための評価 呼吸理学療法で行う評価を学ぶ。 【キーワード】スパイロメリー・血液ガス・MRCスケール・6MWT	宮下	(呼吸) Lecture3,6	103
第4回 9/12 (月)	疾患別呼吸理学療法(1) 慢性呼吸不全 慢性閉塞性肺疾患(COPD)に対する介入方法を学ぶ。 【キーワード】コンディショニング・運動療法・ADL指導	宮下	(呼吸) Lecture13 Lecture 7 Lecture10	103
第5回 9/14 (水)	疾患別呼吸理学療法(2) 急性呼吸不全(外科手術後) 周術期における介入方法を学ぶ。 【キーワード】術後合併症・聴診・排痰・気管吸引	宮下	(呼吸) Lecture14 Lecture 5,8 Lecture15	103
第6回 10/4 (火)	循環器系の解剖と生理 【キーワード】冠循環、心ポンプ機能、循環調節機構、心電図	菊池 (校長)	(循環・代謝) Lecture2	103
第7回 10/7 (金)	虚血性心疾患、慢性心不全の病態・検査と治療 【キーワード】心筋虚血、心不全、検査所見	菊池 (校長)	(循環・代謝) Lecture5,7	103
第8回 10/20 (木)	運動耐容能とその評価 運動に伴う循環器の反応について学ぶ。 【キーワード】運動時の血流配分・運動時の循環応答・嫌気性代謝閾値	森先生 (外部講師)	(循環・代謝) Lecture3	107
第9回 10/27 (木)	心臓リハビリテーション総論、循環器理学療法の評価 心臓リハビリテーションの目的・効果と、評価について学ぶ。 【キーワード】運動療法の身体効果・リスク層別化	森先生 (外部講師)	(循環・代謝) Lecture8 Lecture9	107
第10回 11/10 (木)	循環器理学療法の実際 循環器疾患(主に虚血性心疾患)に対する介入方法を学ぶ。 【キーワード】心臓リハプログラム・Mets・運動療法の禁忌・運動処方	森先生 (外部講師)	(循環・代謝) Lecture 9 Lecture10	107
第11回 11/17 (木)	代謝疾患 糖尿病の病態 糖尿病の病態や疾患特性について学ぶ 【キーワード】インスリン作用・I型糖尿病・II型糖尿病	赤岩	(循環・代謝) Lecture 11	107
第12回 11/24 (木)	代謝疾患 糖尿病と合併症 糖尿病の合併症と治療指針について学ぶ 【キーワード】合併症・壊疽・治療方法	赤岩	(循環・代謝) Lecture 12	107
第13回 12/1 (木)	代謝疾患 糖尿病の理学療法 糖尿病の運動療法と食事療法について学ぶ。 【キーワード】運動処方・GLUT4・糖尿病教育	赤岩	(循環・代謝) Lecture 12 Lecture 13	107
第14回 12/9 (金)	代謝疾患 高血圧症・肥満症 生活習慣病の病態と理学療法について学ぶ。 【キーワード】生活習慣病・動脈硬化・合併症	赤岩	配布資料	105
第15回 12/16 (金)	代謝疾患 腎機能障害・肝機能障害 腎機能障害と肝機能障害の病態と理学療法について学ぶ。 【キーワード】腎疾患・人工透析・肝機能障害	赤岩	配布資料	101
定期試験	後期末試験	宮下		

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	内部疾患理学療法学実習	1	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年	宮下 正好 / 赤岩 龍士 菊池 和也	解剖学Ⅱ、生理学、内科学Ⅰ、内科学Ⅱ、基礎PT学 機能診断学、内部疾患理学療法学 など			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	呼吸器疾患、代謝疾患に対する介入方法を知る。 心電図の体験を通して、波形に対する理解を深める。				
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸のフィジカル・アセスメントを体験する。 2. 呼吸器疾患(慢性、急性)に対する介入の流れを知る。 3. 気管吸引の流れを知り、一通り実施する。 4. 心電図検査の流れを体験し、代表的な異常波形を知る。 5. 代謝疾患、生活習慣病に対するアプローチ(運動療法、コーチング)を知る。 6. 運動処方考え方を理解する。 				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>この授業では、呼吸器疾患と代謝疾患への介入方法、および心電図を実習を通して学びます。 本校の臨床実習などは内部障害系の疾患は必須項目ではありません。そこで、骨関節疾患、中枢神経疾患に対する評価・手技に比べて求める習熟度は低く設定していますが、基本的な手技を体験して、臨床に出た後あらたに学ぶ際に繋がるようにしていきます。</p>					
教科書・参考書					
教科書： 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸(中山書店) *第1回～第7回、第8・9回 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 循環・代謝(中山書店) *第10回、第11回～第15回					
受講時留意点、その他					
運動のしやすい服装で受講して下さい。体調管理に注意して休まず受講しましょう。 呼吸器の授業では、聴診器、パルスオキシメーターなどを使用します。使用後は消毒をして片付けて下さい。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験					
小テスト					
レポート	80	介入方法、運動処方などに関するレポートを課して採点する。呼吸器疾患40点満点、代謝疾患40点満点とする。			
実技試験					
プレゼンテーション					
その他	20	気管吸引の一通りの流れが出来るかを、20点満点で評価する。授業の中で「行動観察」を行い、最終的な到達度を確認する。 授業に対する興味・関心が良好、周囲との協調性が良好な場合など、加点の対象とする事がある。 授業に対する迷惑行為、無礼な態度、不適切な身だしなみ(頭髪、爪、服装)、携帯電話等の使用、飲食などは、減点の対象とします。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 8/25 (木)	呼吸理学療法のための評価(1) フィジカルアセスメント 視診、触診、聴診を体験する。 【キーワード】呼吸数・呼吸パターン・聴診・正常呼吸音	宮下	(呼吸) Lecture5	機能訓練室 聴診器 ハルスオキシメーター
第2回 9/1 (木)	呼吸理学療法基本手技(1) コンディショニング 呼吸練習の意義と方法を学ぶ。 【キーワード】口すぼめ呼吸・横隔膜呼吸	宮下	(呼吸) Lecture7	機能訓練室 聴診器 ハルスオキシメーター
第3回 9/8 (木)	呼吸理学療法基本手技(2) 呼吸困難改善のための手技 呼吸介助手技の意義と方法を学ぶ。 【キーワード】呼吸困難・呼吸介助手技	宮下	(呼吸) Lecture8,9	機能訓練室 聴診器 ハルスオキシメーター
第4回 9/15 (木)	呼吸理学療法基本手技(3) 排痰法・排痰で用いる手技 排痰の流れを学ぶ。 【キーワード】聴診・副雑音・体位排痰法・スクイーピング	宮下	(呼吸) Lecture8	機能訓練室 聴診器 ハルスオキシメーター
第5回 9/29 (木)	呼吸理学療法のための評価(2) その他の評価 6分間歩行試験を体験し、運動処方の方考え方を学ぶ。 【キーワード】6MWT・運動処方・AT	宮下	(呼吸) Lecture 6 Lecture10	機能訓練室 聴診器 ハルスオキシメーター
第6回 10/6 (木)	吸引 吸引に必要な知識を学び、実践する。 【キーワード】生体に与える影響・手順・標準予防策	宮下	(呼吸) Lecture15	基礎医学実 習室 吸引装置
第7回 10/13 (木)	吸引 気管吸引の流れを一通りできるようにする。 【キーワード】標準予防策・気管吸引	宮下	(呼吸) Lecture15	基礎医学実 習室 吸引装置
第8回 10/20 (木)	疾患別呼吸理学療法(1) 慢性呼吸不全 慢性呼吸不全に対する介入方法を考える。 【キーワード】フィジカルアセスメント・呼吸法指導・動作指導	宮下	(呼吸) Lecture13	機能訓練室 聴診器 ハルスオキシメーター
第9回 10/27 (木)	疾患別呼吸理学療法(2) 急性呼吸不全 急性呼吸不全に対する介入方法を考える。 【キーワード】聴診・体位排痰法・スクイーピング	宮下	(呼吸) Lecture14	機能訓練室 聴診器 ハルスオキシメーター
第10回 11/9 (水)	心電図の診かた 心電図を測定し読影する。 【キーワード】12誘導、電極と心電図波形	菊池 (校長)	(循環・代謝) Lecture3	機能訓練室 心電図
第11回 11/17 (木)	代謝疾患の運動処方 エネルギー代謝 エネルギー代謝と運動処方について学ぶ。 【キーワード】三大栄養素・ATP-PCr系・TCA回路	赤岩	(循環・代謝) Lecture 1	機能訓練室
第12回 11/24 (木)	代謝疾患の運動処方 運動強度と運動の種類 運動処方が必要とされる強度設定について学ぶ。 【キーワード】最大酸素摂取量・AT(嫌気性代謝閾値)・METs(代謝 当量)	赤岩	(循環・代謝) Lecture 1 Lecture 3	機能訓練室
第13回 12/1 (木)	代謝疾患の評価と理学療法 運動処方における持久運動の種類と評価について学ぶ。 【キーワード】全身持久力・トレッドミル・自転車エルゴメーター	赤岩	(循環・代謝) Lecture 3 Lecture 13	機能訓練室
第14回 12/9 (金)	代謝疾患の評価と理学療法 運動処方における抵抗運動の種類と評価について学ぶ。 【キーワード】下肢筋力・WBI・等速性筋収縮	赤岩	(循環・代謝) Lecture 3 Lecture 13	103
第15回 12/16 (金)	代謝疾患に対する運動処方演習 代謝疾患に対する運動処方を作成する。 【キーワード】運動処方・リスク管理・糖尿病教育	赤岩	(循環・代謝) Lecture 3 Lecture 13	103
補習 11/11 (金)	慢性呼吸不全、急性呼吸不全のケース・スタディ 提示された仮想症例に対してレポートを作成する。	宮下		103

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	日常生活活動学	2	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年	三田久載	基礎理学療法学、機能診断学、日常生活活動学実習、生活環境論、など			
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	日常生活の特徴を理解し、基本的な評価方法で評価できる。				
行動目標 (SBO)	1、日常生活活動に関わる概念や用語を説明できる。 2、各日常生活活動の特徴を理解し、動作の特徴を捉えることが出来る。 3、日常生活活動の評価法の種類を知り、BI・FIMの基本的な評価方法を習得する。 4、代表的な疾患のADLについて説明できる				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>この授業は、対象者の日常生活について学ぶ授業です。生活復帰するために理学療法を行う上で必要な評価を学んだり、疾患による特性を学んだりします。 臨床的にイメージしづらいことも多いと思いますので、そのような場合は動画など可能な範囲で提示していきます。 代表的な評価スケールに関しては自分で評価できるように、自宅などでもチャレンジしてみましょう。</p>					
教科書・参考書					
教科書:松澤正、江口勝彦 著:理学療法評価学 改訂第4版, 金原出版, 2012 千野 直一 編著:脳卒中中の機能評価SIASとFIM, 金原出版,2012 伊藤利之 編 :新版日常生活活動学(ADL), 医歯薬出版,2010 参考書:千住秀明 監修:理学療法学テキスト 日常生活活動(ADL) 第2版, 神稜文庫, 2007 鶴見隆正 編集:標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学, 2004 細田多穂 監修:シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動テキスト改訂第2版, 南江堂, 2011					
受講時留意点、その他					
学習内容の理解が深まるように、予習として教科書を読んでもらうこと。また、授業後には授業の振り返りを行い、次週までに整理しておくこと。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	前期末試験を行う。60点以上を合格の目安とする。			
小テスト	*	小テストを予定しているが、基本的には成績評価には含まれない。基準点に満たないものは課題や補習で対応します。			
レポート	0				
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他		随時、授業に関する予習、復習の指示を出します。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月5日	<u>イントロダクション、ADLの概念、位置づけ、目的、ポイント</u> なぜADLが重要なのか理解する。 【キーワード】 APDL、IADL、出来るADL、しているADL	三田久載	①p216-220	103・4
第2回 4月12日	<u>ADLとQOL</u> ADLとQOLの関係性を理解する。 【キーワード】 ICF、QOL、ニーズ	三田久載	①p229-233	103・4
第3回 4月19日	<u>様々なADL評価スケール①</u> 代表的な評価スケールの概要を知る。 【キーワード】 BI、FIM、ケニー式、PULSES、ケニー式、など	三田久載	①p221-228	103・4
第4回 4月26日	<u>様々な評価スケール②</u> 各評価表の特徴とそれぞれの違いを把握する。 【キーワード】 BI、FIM、ケニー式、PULSES、ケニー式、など	三田久載	①p221-228	103・4
第5回 5月17日	<u>Barthel Index①</u> 評価内容を理解し、評価できるようになる。 【キーワード】 Barthel Index、	三田久載	①p223-224	103・4
第6回 5月24日	<u>Barthel Index②</u> 実際の動作から評価してみる。 【キーワード】 Barthel Index	三田久載	①p223-224	103・4
第7回 5月25日	<u>Functional Independence Measure(1)</u> 日常生活動作(ADL)の代表的な評価尺度であるFIMを利用することができる。 【キーワード】総論、背景、全容	三田久載	②p78-89	103・4
第8回 5月31日	<u>Functional Independence Measure(2)</u> 日常生活動作(ADL)の代表的な評価尺度であるFIMを利用することができる。 【キーワード】セルフケア	三田久載	②p90-104	103・4
第9回 6月7日	<u>Functional Independence Measure(3)</u> 日常生活動作(ADL)の代表的な評価尺度であるFIMを利用することができる。 【キーワード】排泄、移乗、移動	三田久載	②p105-120	103・4
第10回 6月14日	<u>Functional Independence Measure(4)</u> 日常生活動作(ADL)の代表的な評価尺度であるFIMを利用することができる。 【キーワード】FIM、介護負担度、運動項目、認知項目	三田久載	②p121-133	103・4
第11回 6月21日	<u>復習 I</u> 第10回目までの内容で問題演習と解説を行い、学習の理解度を確認する。	三田久載	配布資料	103・4
第12回 6月28日	<u>中枢神経疾患のADL</u> CVAにおけるADLの特徴を説明できる。	三田久載	配布資料	103・4
第13回 7月5日	<u>中枢神経疾患のADL</u> 神経筋疾患におけるADLの特徴を説明できる。	三田久載	配布資料	103・4
第14回 7月12日	<u>整形外科疾患のADL</u> 骨折やOA、RAにおけるADLの特徴を説明できる。	三田久載	配布資料	103・4
第15回 7月19日	<u>ADL評価のケーススタディー、まとめ</u> 症例を通してBIやFIMを使用できる。	三田久載	配布資料	103・4
定期試験	<u>前期末試験</u>			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	日常生活活動学実習	1	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年	片平美紀・渡邊祥子	日常生活活動学、動作分析学、理学療法の治療学全般			
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	基本動作及び歩行訓練が行えるようになるために、日常生活活動における基本動作の介助や指導方法を理解する。				
行動目標 (SBO)	①ADLにおける基本動作とは何かと言える ④車椅子操作と介助ができる ②基本動作を手順を踏まえて実施できる ⑤歩行補助具の使用方法を指導できる ③基本動作を自立度に合わせて介助できる ⑥環境に合わせた歩行指導ができる				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
日常生活内で行われる基本動作は、それぞれの動作単独で行われる動作ではなく一連の動作で行われます。授業ではそれぞれの動作を取り上げて行いますが、常に次の動作があることを意識してもらいたいと考えています。またそれぞれの動作を分解し、動作を分析しながら授業を行っていきます。それが理解できると、どこを介助すべきか、どの程度介助すべきかを考えられる力が養われ、これが最終的な目標となる授業です。動作分析にも通じる部分でもあるので、後期につなげられるように取り組んで下さい。					
教科書・参考書					
教科書: 千住秀明監修『理学療法テキストV 日常生活活動学(ADL)第2版』(神陵文庫)					
受講時留意点、その他					
動きやすい服装に着替えて受講して下さい。ただし実習にふさわしい服装をお願いします。華美なもの、破れた服装の場合は受講を認めない事があります。 感染症予防習慣化のため、授業前に手洗いを実施し、実技相手が変わるごとに手指はアルコール消毒をしましょう。衛生面に配慮(床に膝をつかない。床に物を置かないなど)しましょう。 授業終了時に自己チェックリストにて、その日の実技を自己採点してもらいます。出席簿も兼ねていますので、必ず記載して授業終了時に提出して下さい。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	0				
小テスト	0				
レポート	0				
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他	100	自己チェックリスト(10%) 実技確認の内容(90%)			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月5日	コースオリエンテーション、臥位姿勢、寝返り、起き上がり この授業の概要及び説明、寝返りから起き上がりを行ってみる。	片平	49-57	治療室
第2回 4月12日	臥位姿勢、寝返り、起き上がり、座位姿勢(1) 寝返りの立ち直り反応を観察し、軽度介助が行えるようになる。	片平	49-58	治療室
第3回 4月19日	臥位姿勢、寝返り、起き上がり、座位姿勢(2) 寝返りから起き上りの中等度及び重度介助ができるようになる。	片平	49-58	治療室
第4回 4月26日	座位姿勢、立ち上がり、移乗(1) 立ち上りの動作が、どういった身体運動で行われているのか理解する。 立ち上がり動作を軽度、中等度、重度介助する。	片平	55-61 67-71	治療室
第5回 5月17日	座位姿勢、立ち上がり、移乗(2) 移乗動作を2人または3人で介助する方法を学ぶ。 起き上がりから移乗動作といった一連の動作を介助する。	片平・渡邊	—	治療室
第6回 5月24日	座位姿勢、立ち上がり、移乗(3) 椅子と椅子およびベッドと車いす間の移乗動作を介助する。	渡邊	—	治療室
第7回 5月31日	車椅子操作 車いす自走を体験し、指導方法を学ぶ。 車いす介助を様々な場面で体験し方法について学ぶ。	片平・渡邊	88-95	治療室
第8回 6月7日	四つ這い、膝立ち、床からの立ち上がり(1) 支持基底面の変化と重心移動の関係を意識した操作方法を学ぶ。	片平	61-70	治療室
第9回 6月8日	四つ這い、膝立ち、床からの立ち上がり(2) 支持基底面の変化と重心移動の関係を意識した操作方法を学ぶ。	片平	61-70	治療室
第10回 6月14日	四つ這い、膝立ち、床からの立ち上がり(3) 支持基底面の変化と重心移動の関係を意識した操作方法を学ぶ。	片平	61-70	治療室
第11回 6月21日	実技確認 第1回～10回の授業より課題を提示。それを実施する。	片平・渡邊	49-71	治療室
第12回 6月28日	立ち上がり、歩行(1) ステップング、ウェイトシフトが歩行にどう関与しているのか経験する。 %ウェイトの変化を経験する。	片平・渡邊	—	治療室
第13回 7月5日	立ち上がり、歩行(2) T杖を対象者に合わせ、2動作および3動作を指導する。 松葉杖を対象者に合わせ、4点交互歩行を指導する。	片平・渡邊	109-112 115-119	治療室
第14回 7月12日	立ち上がり、歩行、階段昇降、段差昇降 松葉杖での2点交互歩行、小振り歩行、免荷歩行を指導する。 T杖および松葉杖での応用歩行を体験する。	片平・渡邊	77-87 109-112 115-119	治療室
第15回 7月19日	復習 自己チェックリストにて、○がついていない項目を復習しできるようにする。	片平・渡邊	49-119	治療室
定期試験 —	なし	—	—	—

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	物理療法学	2	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年	宮下正好／内田成男／佐藤 梢	生理学、物理療法学実習、運動療法学			
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	物理療法の理論と実施方法を理解する。				
行動目標 (SBO)	1. 物理的手段の基礎事項が分かる。 2. 物理療法の生体への反応を述べることができる。 3. 各療法の実施手順を述べるができる。 4. 各療法の適応、禁忌が分かる。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>この科目では、物理療法の基礎理論から実践方法まで学んでいきます。</p> <p>物理療法の基礎理論は、治療手段の基礎となる「物理学」の内容と、生体の反応を理解するための「生理学」の内容に大別できます。物理学の考え方については慣れていない人もいるかもしれませんが、学ぶのは治療手段の理解に最低限必要なものだけです。苦手意識をもたずに取り組んで下さい。</p> <p>治療の実施については、実施手順とあわせて、適応・禁忌を十分に理解しましょう。リスク管理は、物理療法においても重要な事項です。禁忌をしっかりと覚え、適切な物理療法を選択できるようにしましょう。</p>					
教科書・参考書					
石川 朗(編):15クチャーシリーズ 物理療法テキスト 物理療法学・実習(第1版), 中山書店, 2014					
受講時留意点、その他					
健康管理に留意し、休まずに受講しましょう。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	後期末試験を実施する。6割を合格の目安とする。			
小テスト	*	問題演習を2回実施するが、成績評価には含めない。ただし、故意の白紙提出、カンニングなどに対しては、受講態度不適切として減点の対象とする場合がある。			
レポート					
実技試験					
プレゼンテーション					
その他	*	授業に対する興味・関心が良好で、積極的な授業参加がみられる場合、加点の対象とする場合がある。 迷惑行為、正当でない理由での欠席、無礼な態度 などは減点の対象とする場合がある。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 8月29日(月)	<u>コースオリエンテーション、物理的なエネルギー</u> 物理的なエネルギーの種類を学ぶ。 【キーワード】熱エネルギー・波のエネルギー・電気エネルギー	宮下		103
第2回 9月5日(月)	<u>物理療法の対象となる病態</u> 物理療法の対象となる症状、病態を学ぶ。 【キーワード】炎症・疼痛	内田 (副校長)	p1-p11	103
第3回 9月12日(月)	<u>寒冷療法</u> 寒冷療法の生理学的作用と実施方法を学ぶ。 【キーワード】アイスマッサージ・生理学的作用・適応・禁忌	赤岩	p59-p70	101
第4回 9月26日(月)	<u>水治療法</u> 水の特性と水治療法の実際を学ぶ。 【キーワード】浮力・抵抗・生理学的作用・渦流浴・プール療法	大沼	p71-p82	103
第5回 10月3日(月)	<u>牽引療法</u> 牽引の生体への力学的影響を理解し、適応・禁忌を学ぶ。 【キーワード】頸椎牽引・腰椎牽引・牽引力・方向	内田 (副校長)	p143-p152	103
第6回 10月17日(月)	<u>電気刺激療法の基礎</u> 電気エネルギーの理論を理解し、生理学的効果を学ぶ。 【キーワード】電流・持続時間・周波数	内田 (副校長)	p95-p106	103
第7回 10月24日(月)	<u>電気刺激療法:TES・TENS・FES</u> 各種電気刺激療法について学ぶ。 【キーワード】治療的電気刺激・経皮的電気刺激・治療的電気刺激	内田 (副校長)	p107-p142	103
第8回 10月31日(月)	<u>光線療法:紫外線、赤外線</u> 紫外線、赤外線の性質と分類を理解し、適応・禁忌を学ぶ。 【キーワード】電磁波・紫外線・赤外線	宮下	p47-p51 p25-p34	103
第9回 11月7日(月)	<u>光線療法:レーザー療法</u> レーザー光線の性質と分類を理解し、適応・禁忌を学ぶ。 【キーワード】波長・出力・適応・禁忌	宮下	p51-p58	103
第10回 11月16日(水)	<u>温熱の基礎</u> 温熱の物理的特性と生理学的作用を学ぶ。 【キーワード】比熱・熱の移動・生体反応	佐藤	p11-	基礎医学 実習室
第11回 11月21日(月)	<u>温熱療法:極超短波</u> エネルギー変換熱について学ぶ。 【キーワード】熱発生の原理・生理学的作用・コサインの法則・禁忌	佐藤	p35-p46	103
第12回 11月28日(月)	<u>温熱療法:ホットパック、パラフィン浴</u> 代表的な伝導熱について学ぶ。 【キーワード】ホットパック・パラフィン・適応・禁忌	佐藤	p11-p24	103
第13回 12月5日(月)	<u>温熱療法:超音波療法</u> 超音波の原理・特性と実施手順、適応と禁忌を学ぶ。 【キーワード】ビーム不均等率・有効照射面積・実施手順・適応・禁忌	大沼	p83-p94	103
第14回 12月12日(月)	<u>物理療法の基礎と寒冷療法、電気刺激療法等(復習)</u> 物理の基本事項と代表的物理療法の要点を復習する。 【キーワード】物理エネルギー・疼痛・炎症・寒冷・水治・牽引・電気	宮下		103
第15回 12月13日(火)	<u>温熱療法の基礎と実際(復習)</u> 温熱療法の基礎理論と代表的な温熱療法を復習する。 【キーワード】熱の物理学・生理学、温熱療法、超音波、光線	宮下		103
定期試験	後期末試験			

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	物理療法学実習	1	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年	大沼 賢洋／佐藤 梢	生理学、物理療法学、運動療法学			
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	代表的な物理療法を一通り実施することができる。 各種疾患に適した物理療法を選択できる。				
行動目標 (SBO)	1. 物理的刺激による生体反応を体験し、理解できる。 2. 物理療法機器の基本的な操作ができる。 3. 注意事項に応じた確認、説明が出来、禁忌を回避できる。 4. 代表的な疾患へ適した物理療法を選択し、治療プログラムを検討できる。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>この授業では、講義で学んだ各種療法を実際に行います。自ら体験すること、観察することで、物理的刺激で生じる生体反応を理解できるでしょう。</p> <p>また、実施手順、禁忌を覚え、安全に行う実技を身につけていきます。機器の台数が限られているため、何グループかに分かれてローテーションしながらの実習になります。限られた時間になりますが、出来るだけ多く体験し、授業時間内で一通りの操作ができるようにしていきます。</p> <p>もう一つの目標として、各種疾患に適した物理療法の選択ができるようにしていきます。治療法の選択は難しい課題ですが、グループで協力しながら検討していきます。</p>					
教科書・参考書					
石川 朗(編):15レクチャーシリーズ 物理療法テキスト 物理療法学・実習(第1版), 中山書店, 2014					
受講時留意点、その他					
物理療法機器を扱いますので、危険が伴います。各自集中力をもって授業に臨んで下さい。手洗いをして、爪は短く切り、身だしなみを整えましょう。装飾品は除去して下さい。頭髪をまとめる際は、金属製ピンを使用しないこと。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験					
小テスト					
レポート	70	第12回で作成するレポートを70%の評価割合で成績評価に参入する。 なお、レポートは第12回の時間内で作成、提出することとする。			
実技試験					
プレゼンテーション					
その他	30	代表的な温熱療法、牽引療法が一通り実施できるようになったかを「行動観察」で評価する。 第15回に実施する課題は、2週間前に提示。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 8月29日	寒冷療法 寒冷療法の体験を通して生体の反応を学ぶ。 【キーワード】表面温度計・氷・バイタルサイン	赤岩	p59-p70	治療室
第2回 9月26日	水治療法 渦流浴の体験を通して、全身・局所への影響を理解する。 【キーワード】部分浴・全身浴	大沼 佐藤	p71-p82	治療室 水治療室
第3回 9月29日	水中運動療法① プールでの実習を通して、水の特性を学ぶ。 【キーワード】浮力・抵抗・粘性	植田 佐藤 大沼	p71-p82	103・4 Rスイミングク ラブ
第4回 9月29日	水中運動療法② プールでの実習を通して、水の特性を学ぶ。 【キーワード】浮力・抵抗・粘性	植田 佐藤 大沼	p71-p82	103・4 Rスイミングク ラブ
第5回 10月3日	牽引療法 牽引装置の操作体験を通し、牽引力・方向の調整を学ぶ。 【キーワード】頸椎牽引・腰椎牽引	内田 片平 大沼	p143-p152	治療室
第6回 10月17日	電気刺激療法① 電気刺激装置の使用方法和時値、SD曲線を学ぶ。 【キーワード】モーターポイント・クロナキシー・TES・TENS	内田 片平 大沼	p95-p142	治療室
第7回 10月24日	電気刺激療法② 電気刺激装置の使用方法和時値、SD曲線を学ぶ。 【キーワード】モーターポイント・クロナキシー・TES・TENS	内田 片平 大沼	p95-p142	治療室
第8回 10月31日	温熱刺激による生体反応 温熱による生体の変化を体験し、測定する。 【キーワード】伝導熱・表面温度・伝導率	佐藤	p11-p46	治療室
第9回 11月7日	温熱療法 代表的な温熱療法の実施手順を習得する。 【キーワード】ホットパック・パラフィン・極超短波	佐藤	p11-p24 p35-p46	治療室
第10回 11月14日	物理療法の総合復習① 各種療法の復習を行う。超音波、レーザーについても体験する。 【キーワード】温熱療法・牽引療法・電気刺激療法・光線療法	大沼 佐藤	p11-p58 p83-p152	治療室
第11回 11月21日	物理療法の総合復習② 各種療法の復習を行う。超音波、レーザーについても体験する。 【キーワード】温熱療法・牽引療法・電気刺激療法・光線療法	宮下 大沼 佐藤	配布資料	103・4
第12回 11月28日	物理療法の総合復習③ 代表的な温熱療法、牽引療法の実施が一通りできるか確認する。 【キーワード】腰椎牽引・ホットパック・極超短波	大沼 片平 佐藤		治療室・ 機能訓練 室
第13回 12月5日	疾患別物理療法プログラムの検討 ① 骨関節疾患に対する物理療法の選択をグループで検討する。 【キーワード】骨折・変形性関節症・腰痛症・肩関節周囲炎	大沼 佐藤	配布資料	107
第14回 12月12日	疾患別物理療法プログラムの検討 ② 神経疾患に対する物理療法の選択をグループで検討する。 【キーワード】末梢神経麻痺・中枢性麻痺・疼痛	三田 佐藤	配布資料	103・4
第15回 2016//	疾患別物理療法プログラムの検討 ③ 各種疾患に対する物理療法をレポートにまとめる。 【キーワード】骨関節疾患・神経疾患・適応と禁忌	大沼 佐藤	配布資料	107
定期試験				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	義肢装具学	2	60	必修	-
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年生	市村真樹 植田英則	解剖学・運動学・運動機能評価学・整形外科学			
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	代表的な疾患の義足・装具を知り、選択することができる。				
行動目標 (SBO)	1. 正常歩行と比較し、運動・運動力学的視点で義足・装具歩行を説明できる。 2. 義肢装具の適応、特徴を理解できる。 3. 義足・装具の適切なアプローチおよび適合とアライメントを理解できる。				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>・本講義では、身体バイオメカニクスを基に進めていく。解剖学・運動学の復習を十分行うことで理解が深まります。授業中に義肢装具の実物を提示しますので、しっかり確認するようにしてください。</p>					
教科書・参考書					
A オリジナル配布資料(バイオメカニクス) B 中山 孝他:理学療法基礎治療学Ⅲ補装具療法 医歯薬出版株式会社 C Jacquelin Perry他:ペリー歩行分析 正常歩行と異常歩行 原著第2版 医歯薬出版株式会社 D 川村次郎他:義肢装具学 第4版、医学書院					
受講時留意点、その他					
実習の時は、動きやすい服装で参加すること。					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	100	後期末試験を実施する。出題は義肢学5割、装具学5割とし、6割以上を合格とする。			
小テスト	0				
レポート	0				
実技試験	0				
プレゼンテーション	0				
その他	※	授業内で、周囲に対しての迷惑行為、居眠りは減点の対象となります。			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 8月29日	義肢装具の基本的知識 歩行のバイオメカニクス① 力の合成と分解	市村	A配布資料 Cペリー歩 行分析	103
第2回 9月5日	義肢装具の基本的知識 歩行のバイオメカニクス② 生体におけるテコ	市村	A配布資料 Cペリー歩 行分析	107
第3回 9月7日	義肢装具の基本的知識 歩行のバイオメカニクス③ 重心と床反力	市村	A配布資料 Cペリー歩 行分析	103
第4回 9月8日	義肢装具の基本的知識 歩行のバイオメカニクス④ 関節モーメントと筋活動	市村	A配布資料 Cペリー歩 行分析	103
第5回 9月12日	義肢装具の基本的知識 歩行のバイオメカニクス⑤ 演習問題	市村	A配布資料 Cペリー歩 行分析	103
第6回 9月15日	義肢装具の基本的知識 歩行のバイオメカニクス⑥ 演習問題	市村	A配布資料 Cペリー歩 行分析	107
第7回 9月20日	義肢学:切断・義肢総論義足の基本的知識を深める。 【キーワード】名称・種類・仮義足	植田	義肢装具学 P69～78	103
第8回 9月26日	装具学:装具の分類総論 【キーワード】下肢装具 体幹装具 上肢装具	市村	B補装具療 法P10～P35	装具加工室
第9回 9月27日	義肢学:下腿義足①代表的なソケットの特徴を理解する。 【キーワード】ソケット、特徴、適応	植田	義肢装具学 P120～13 4	103
第10回 10月3日	装具学:装具の分類各論 下肢装具 【キーワード】長下肢装具 短下肢装具 継手	市村	B補装具療 法P10～P28	装具加工室
第11回 10月4日	義肢学:下腿義足②装着後の正常なアライメントを理解する。 【キーワード】ベンチアライメント、スタティックアライメント	植田	義肢装具学 P120～13 4	103
第12回 10月11日	義肢学:下腿義足③各相での異常の形、その原因を理解する。 【キーワード】異常歩行、IC～MSt	植田	義肢装具学 P120～13 4	103
第13回 10月17日	装具学:装具の分類各論 上肢装具 【キーワード】肩関節装具 手関節装具	市村	B補装具療 法P34～P35	装具加工室
第14回 10月18日	義肢学:大腿義足①代表的なソケットの特徴を理解する。 【キーワード】四辺形ソケット、坐骨収納型ソケット	植田	義肢装具学 P135～15 6	103
第15回 10月24日	装具学:装具の分類各論体幹装具 【キーワード】腰仙椎装具 側弯矯正装具 頸椎装具	市村	B補装具療 法P29～P33	装具加工室
定期試験				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第16回 10月25日	義肢学:大腿義足②大腿義足の膝継手の特徴を理解する。 【キーワード】膝継手、遊脚相、立脚相	植田	義肢装具学 P135～156	103
第17回 10月31日	装具学:脳卒中の装具療法① 【キーワード】初期接地 ヒールロッカーファンクション PAFO	市村	義肢装具学 P201～P216	装具加工室
第18回 11月1日	義肢学:大腿義足③大腿義足のアライメントを理解する。 【キーワード】静的・動的アライメント	植田	義肢装具学 P135～156	103
第19回 11月7日	装具学:脳卒中の装具療法② 【キーワード】荷重応答期 アンクルロッカーファンクション 反張膝	市村	義肢装具学 P201～P216	装具加工室
第20回 11月8日	義肢学:大腿義足④異常歩行の原因と出現相を理解する。 【キーワード】異常歩行、遊脚期、立脚期	植田	義肢装具学 P58～62	103
第21回 11月14日	装具学:脳卒中の装具療法③ 【キーワード】可撓性 支持性 SVA	市村	義肢装具学 P201～P216	装具加工室
第22回 11月15日	義肢学:義足体験・歩行介助模擬義足体験装置を使用し、義足歩行 指導を体験する。【キーワード】体験装置、介助法	植田	義肢装具学 P58～62	103
第23回 11月21日	装具学:脊髄損傷の装具療法① 【キーワード】車椅子 クッション	市村	義肢装具学 P217～P226	装具加工室
第24回 11月22日	義肢学:股義足・膝義足・サイム義足・足部部分義足 代表的な義足の 特徴を理解する。【キーワード】特徴、ソケット、アライメント	植田	義肢装具 学P157～ 188	機能訓練室
第25回 11月28日	装具学:脊髄損傷の装具療法② 【キーワード】頸髄損傷の歩行 プライムウォーク	市村	義肢装具学 P217～P216	装具加工室
第26回 11月29日	義肢学:断端管理法・評価模擬断端を使用し、ソフトドレッシング法を体 験する。【キーワード】ソフトドレッシング法、周径、四肢長	植田	義肢装具 学P42～46	機能訓練室
第27回 12月5日	装具学:整形外科疾患の装具療法 【キーワード】SOMIブレース ミルウォーキー ポストン	市村	配布資料	装具加工室
第28回 12月6日	義肢学:切断のリハビリテーション 切断患者のADL指導を実施することが できる。【キーワード】ADL、義足側、健側	植田	義肢装具学 P248～P271	機能訓練室
第29回 12月12日	装具学:装具歩行分析(実技) 【キーワード】アライメント 代償動作 逸脱運動	市村	配布資料	装具加工室
第30回 12月13日	装具学:まとめの演習問題	市村	義肢装具学	装具加工室
定期試験				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	地域リハビリテーション学	2	30	必修	
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年	市村真樹				
授 業 目 標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	理学療法士として、患者さん・家族・他職種への関わり方を理解し、社会の中の理学療法を考え				
行動目標 (SBO)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法を患者さんの立場に成って考えることが出来る。 2. 理学療法を患者さんの家族の立場になって考えることが出来る。 3. 理学療法士としての態度(相手を尊重した口調、立ち振る舞い)が出来る。 4. リハビリテーションチームの中の理学療法士の関わり方を理解することが出来る。 5. リハビリテーションを取り巻く周囲環境(社会資源・保険制度など)を理解することが出来る。 				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>リハビリテーションは、多くの専門職と連携をとり、患者さんや家族と一緒に行ないます。理学療法士は理学療法の知識だけでなく、患者さんや家族から感じるリハビリテーションを知る必要があります。また、他の専門職との情報交換も大変重要です、この科目では、ロールプレイを中心に、理学療法士や患者、家族の立場からみた障害やリハビリテーションを体験していきます。</p>					
教科書・参考書					
配布資料					
受講時留意点、その他					
<p>体調管理をしっかり行い、休まずに受講して下さい。 受講時は礼儀正しく、清潔な身だしなみ(頭髪、服装など)を心がけましょう。グループワークが中心です。「話す態度・聞く態度」を身につけましょう。 内容、時間割を変更することがあります。その際は、掲示板、デスクネッツなどでお知らせします。注意深く見ておくようにして下さい。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	80	前期末試験で6割以上の者を合格とする。6割未満の者は再試験を実施する。			
小テスト	0				
レポート	0				
グループワーク	10	グループワークでの態度・発言等を参考にする。			
プレゼンテーション	10	テーマを決め、1コマポスターを作成する。内容を参考にする。			
その他	*	<p>科目に対する興味、関心、学習に対する積極性が良好な場合、加点の対象とする場合がある。 授業に対する迷惑行為、清潔感にかける身だしなみなどは減点の対象とする場合がある。 正当でない理由での欠席は減点の対象とする場合がある。</p>			
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 4月6日	<u>地域のリハビリテーションを考える(チームアプローチの在り方)</u> リハビリテーションの一連の流れとそこに関わる専門職を学ぶ 【キーワード】チームアプローチ	市村真樹	配布資料	103・4
第2回 4月13日	<u>総合病院の理学療法(いわゆる急性期)</u> 急性期に関わる専門職と患者、家族の気持ちを討論する。	市村真樹	配布資料	103・4
第3回 4月20日	<u>リハビリテーション専門病院の理学療法(いわゆる回復期)</u> 回復期に関わる専門職と患者、家族の気持ちを討論する。	市村真樹	配布資料	103・4
第4回 4月27日	<u>介護老人保健施設の理学療法(いわゆる慢性期)</u> 慢性期に関わる専門職と患者、家族の気持ちを討論する。	市村真樹	配布資料	103・4
第5回 5月11日	<u>在宅の理学療法</u> 在宅でのリハビリテーションに関わる専門職と、患者家族の気持ちを討論する。	市村真樹	配布資料	103・4
第6回 5月18日	<u>患者家族</u> 患者の家族とは何か。家族の立場から障害やリハビリテーションを討論する。	市村真樹	配布資料	103・4
第7回 5月25日	<u>リハビリテーション対象者を考える</u> 患者とは何か、障がい者心理を中心に討論する。 【キーワード】キューブラー・ロス、喪失	市村真樹	配布資料	103・4
第8回 6月1日	<u>介護保険制度</u> 介護保険制度の仕組みと内容について理解する 【キーワード】介護保険・特定疾患・サービス内容	市村真樹	配布資料	103・4
第9回 6月8日	<u>地域支援事業</u> 介護保険サービスの一つの内容である地域支援事業について理解する 【キーワード】1次予防事業、2次予防事業、包括支援事業、任意事業	市村真樹	配布資料	103・4
第10回 6月15日	<u>ロールプレイ(患者・家族・理学療法士)1回目</u> それぞれの役を演じてリハビリテーションカンファレンスを模擬体験する。	市村真樹	配布資料	103・4
第11回 6月22日	<u>ロールプレイ(患者・家族・理学療法士)2回目</u> それぞれの役を演じてリハビリテーションカンファレンスを模擬体験する。	市村真樹	配布資料	103・4
第12回 6月29日	<u>ロールプレイ(患者・家族・理学療法士)3回目</u> それぞれの役を演じてリハビリテーションカンファレンスを模擬体験する。	市村真樹	配布資料	103・4
第13回 7月6日	<u>ロールプレイ(患者・家族・理学療法士)4回目</u> それぞれの役を演じてリハビリテーションカンファレンスを模擬体験する。	市村真樹	配布資料	103・4
第14回 7月13日	<u>1コマポスター作成</u> テーマを決め、インターネットを使いA4用紙にポスターを作成する。	市村真樹	配布資料	PC教室
第15回 7月20日	<u>ポスター発表会</u> ポスターの発表会	市村真樹		103・4
定期試験	前期末試験	市村真樹		

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	生活環境論	2	30	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科2年	三田久載	社会福祉概論、地域リハビリテーション学、日常生活活動学など			
授業目標 *詳細な目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	家庭復帰、自宅復帰に向けた理学療法の流れを学ぶ				
行動目標 (SBO)	<ul style="list-style-type: none"> 生活環境論の概念を理解する 関連する制度や法律を理解し、説明できる。 福祉用具や機器の特徴と使用方法を説明できる。 住環境整備の流れを理解し、理学療法士の役割を説明できる。 				
この授業の概要、助言、学習支援の方法 など					
<p>この授業は、今までに学習した知識や技術を家庭復帰・社会復帰に向けてどのように結び付けていくかを学ぶ授業です。まずは、いま自分が持っている知識や技術がどのように結びつくのか考えながら受講しましょう。そして、うまく結びつかないところを結びつけるために質問したり調べ学習を進めていくと良いでしょう。</p> <p>すべてを当たり前と思って受け入れず、疑問を持ちながら受講し、それを質問していくことで理解を深めていきましょう。</p>					
教科書・参考書					
<p>教科書 新版 日常生活活動学(ADL) ー評価と支援の実際ー 医歯薬出版</p> <p>参考書 理学療法テキストX 生活環境論 神陵文庫 福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト 東京商工会議所</p>					
受講時留意点、その他					
<p>実習やグループワークに積極的に参加すること。 授業には積極的に参加しましょう。 授業は休まないようにしましょう。</p>					
成績評価方法					
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など			
定期試験	90	後期試験を行います。60%以上を合格の目安とします。			
小テスト	0	実施するが、点数は成績には含みません。あまりにも悪い場合は課題を課します。			
レポート	10	授業での提出物が対象。提出期限を順守できる、丁寧に書式を守った仕上がりを優先して評価する。			
実技試験	なし				
プレゼンテーション	なし				
その他	*				
(合計)	100				

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
第1回 8月30日	<u>ガイダンス、住環境整備論</u> 【key word】環境、住環境、生活環境	三田		103.4
第2回 9月5日	<u>住環境を取り巻く諸制度</u> 【key word】尺貫法、建築基準法、介護保険法	三田		103.4
第3回 9月13日	<u>住環境整備と理学療法</u> 【key word】院内評価、カンファレンス、外泊・外出訓練	三田		103.4
第4回 9月20日	<u>住宅改修の実際</u> 【key word】図面の書き方、段差解消、手すり設置	三田		103.4
第5回 9月27日	<u>住宅改修のケーススタディー</u> 実際の症例に即して改修案を考える。	三田		103.4
第6回 10月4日	<u>整形疾患の生活環境論</u> 【key word】慢性関節リウマチ、変形性関節症	三田		103.4
第7回 10月12日 PM	<u>中枢神経疾患の生活環境論</u> 【keyword】脳卒中、神経難病	三田		103.4
第8回 10月18日 PM	<u>住環境整備に関わる理学療法の実際</u> 臨床で働かれている外部講師を招聘しての授業	外部講師		103.4
第9回 10月25日	<u>生活環境論に関わる歴史</u> 【key word】社会保障制度、IL運動、身体障害者手帳	三田		103.4
第10回 11月1日	<u>理学療法を取り巻く環境：関連法規を中心に</u> 【key word】日本国憲法、社会保障制度、理学療法士・作業療法士法	三田		103.4
第11回 11月8日	<u>生活社会を取り巻く環境：関連法規を中心に</u> 【key word】介護保険法、障害者総合支援法	三田		103.4
第12回 11月15日	<u>住環境を取り巻く関連法規</u> 【key word】ハートビル法、交通バリアフリー法、ユニバーサルデザイン	三田		103.4
第13回 11月22日	<u>住環境整備に関わる福祉機器・用具</u> 【key word】リフター、昇降機、スロープ	三田		103.4
第14回 11月29日	<u>住環境整備とICF</u> 【key word】ICF、環境因子	三田		103.4
第15回 12月6日	<u>まとめ(住環境整備、住宅改修、疾患別環境調整)</u>	三田		103.4
定期試験 1月5日				

授業科目区分	授業科目名	単位	時間	必修・選択	聴講生受入
専門	臨床実習Ⅱ	3	135	必修	—
対象学科・学年	担当教員名	この科目と関連の深い科目			
理学療法学科 2年	臨床実習指導者 2年生担任教員	運動機能評価学・神経機能評価学・日常生活活動学 理学療法評価学Ⅰ・理学療法評価学Ⅱ など			
授業目標 *詳細な授業目標は、毎回授業の冒頭で提示					
一般目標 (GIO)	<ul style="list-style-type: none"> 対象者および実習施設スタッフに医療（あるいは福祉）チームの一員として適切な態度で接することを学ぶ。 基本的な検査・測定・介助を対象者に対して適切に実施できる。 				
行動目標 (SBO)	<p>*詳細な内容は、臨床実習記録の「到達度記録」を参照する。</p> <p>(情意領域)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な身だしなみができる。 対象者、職員に節度をもって接することができる。 環境整備や周辺業務に自ら取り組む。 気配りができる。 医療面接；傾聴し、分かりやすい言葉で説明・指示をする。 <p>(精神運動領域)</p> <ul style="list-style-type: none"> バイタルサインの測定ができる。 形態測定ができる 関節可動域検査ができる。 徒手筋力検査ができる。 筋緊張検査、反射検査ができる。 感覚検査ができる。 片麻痺機能検査ができる。 動作介助（起居動作、移乗動作、車椅子介助、歩行）ができる。 杖の調整ができる。 <p>(認知領域)</p> <ul style="list-style-type: none"> 検査・測定項目を列挙できる。 動作（起居動作、座位、立位、歩行）の観察ができる。 問題点の列挙ができる（機能障害、活動制限、参加制約） ゴール設定ができる。 理学療法記録を適切に保管できる。 				

この授業の概要、助言、学習支援の方法 など

この授業は、学外の実習施設へ通い、臨床実習指導者の下で行われます。診療場面に参加し、様々な体験、見学を行います。実習は以下のような方法で行われます。

(1) 診療参加型臨床実習

- ・ 実習生が臨床実習指導者の助手として診療補助行為を行うことによって、臨床経験を積んでいく授業形態です。
- ・ 2年次は対象者に検査・測定を実施しますが、必ずしも同一の対象者を系統的に診る必要はありません。

(2) 実習日誌

- ・ 行動記録、実習記録（体験数）、1日の振りかえりなどを記載します。
- ・ 体験数は以下のように区別して記録します。
 - 「見学」：指導者の治療などを、解説を受けながら見学した場合。
 - 「模倣」：指導者がお手本を示し、それを模倣した場合。口頭で指導を受けながら、指導者が手を添えて誘導しながら、など直接指導を受けながら対象者に介入した場合も含む。
 - 「実施（監視）」：指導者に近くで監視してもらいながら行う。口頭による指導など受けながらも含む。
 - 「実施（独立）」：指導者が近くにいなくても実施を任されて行う場合。完全な独立でなく、指導者は遠位で監視している状態。
- ・ 毎日記載して、臨床実習指導者へ提出します（学校指定の書式使用）。
- ・ 指導者は確認してサインをします。

(3) 診療記録ノート（理学療法記録）

- ・ 経験したケースについて記録を記載します。その日に経験した症例2～3例について、1時間程度で記載します。
- ・ 記録は施設外へ持ちださず、ルールを守って記載・記録します。記録の取り扱いを通して、個人情報の適切な取り扱いを学びます。

(4) 症例報告書

- ・ A3 1枚程度の報告書を指導者の指導のもとで作成し、学校へ提出します。
- ・ 学校へ提出後、学内で症例報告会を行います。
- ・ 症例報告書の作成を通し、障害に対する思考過程を学びます。
- ・ 指導者の考え方をお手本にして、一通りの思考過程を報告書の形にまとめましょう。

教科書・参考書

臨床実習の手引き（本校編集授業資料）・臨床実習記録（本校編集授業資料）

その他、学内授業で活用した教科書

基礎運動学（医歯薬出版）、理学療法評価学（金原出版）、徒手筋力検査法（協同医書）、ベッドサイドの神経の診かた（南山堂） など

受講時留意点、その他		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 服装は、学校指定のユニフォームとします。ただし、実習施設で指定がある場合それにしたがって下さい。 ・ 実習施設の規則を守り、理学療法学生として適切な行動を心がけて下さい。 ・ 原則的に土日の開講はありません。ただし、実習施設や実習指導者の勤務の関係で曜日変更となる場合があります。 ・ 持参資料 及び 学校提出物、返却物 は以下の通りです。 <p><u>施設へ持参する資料（実習初日に持参）</u></p> <p>臨床実習記録</p> <p><u>学校へ提出する資料（実習終了後）</u></p> <p>臨床実習記録（*）・実習日誌・症例報告書・学生個人票（*）</p> <p>*実習最終日に指導者から返却を受けて下さい。</p>		
成績評価方法		
評価方法	評価割合(%)	具体的な評価の方法、観点 など
定期試験	0	
小テスト	0	
レポート	20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習終了後に提出する「実習日誌」を10%で採点する。 ・ 同じく「症例報告書」を10%で採点する。
実技試験	0	
プレゼンテーション	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床実習セミナーでの発表、討論を10%で採点する。
その他	70	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「臨床実習記録」（「到達度記録」を中心として）、経験数（実習日誌）を中心に採点する。 ・ 正当でない理由での欠席は減点の対象となる。 ・ 対象者、施設への迷惑行為、個人情報への漏えいや漏えいの危険性のある行為は減点の対象となる。 ・ 対象者、施設への迷惑行為の内容によっては、他の成績の状況を問わず、単位認定をしない場合がある。 ・ 個人情報の漏えいまたは漏えいの危険性がある行為を行った場合、内容によっては他の成績の状況を問わず、単位認定をしない場合がある。
(合計)	100	

回数 日付	テーマ、内容、キーワード	教員	教科書	教室 教材
	臨床実習準備講座：実習地の発表、オリエンテーション	2年担任	臨床実習 のてびき	
第1回	コースオリエンテーション	実習指導者		実習施設
第2回	動作介助・検査測定・検査測定項目リストアップ・診療 記録ノート記載	実習指導者		実習施設
第3回	〃	実習指導者		実習施設
第4回	〃	実習指導者		実習施設
第5回	〃	実習指導者		実習施設
第6回	動作介助・検査測定・検査測定項目リストアップ・動作 観察・診療記録ノート記載	実習指導者		実習施設
第7回	〃	実習指導者		実習施設
第8回	〃	実習指導者		実習施設
第9回	到達度チェック	実習指導者		実習施設
第10回	動作介助・検査測定・検査測定項目リストアップ・動作 観察・診療記録ノート記載	実習指導者		実習施設
第11回	動作介助・検査測定・検査測定項目リストアップ・動作 観察・問題点列挙	実習指導者		実習施設
第12回	〃	実習指導者		実習施設
第13回	〃	実習指導者		実習施設
第14回	〃	実習指導者		実習施設
第15回	〃	実習指導者		実習施設
第16回	〃	実習指導者		実習施設
第17回	到達度チェック	実習指導者		実習施設
	臨床実習セミナー：症例報告会など			